

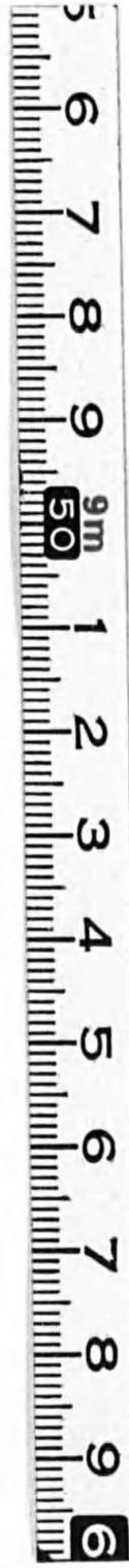
289-7イ



1200600291304

昭和二年

法財人團
理化學研究所案内



始



289-74



一、目的及事業

目次

一頁

所寄贈本

革

三、

織

組
資
會
員
役
員
及
職
員
金
研
究
室



事務室

四、寄附行爲、規則及規程……………二〇

寄附行爲

規則

發明規程

特許實施許諾內規

研究生規程

技術練習生規程

五、位置、建物及設備……………三三

位置

建物及設備

六、昭和二年度研究項目……………四

七、昭和二年度豫算……………五九

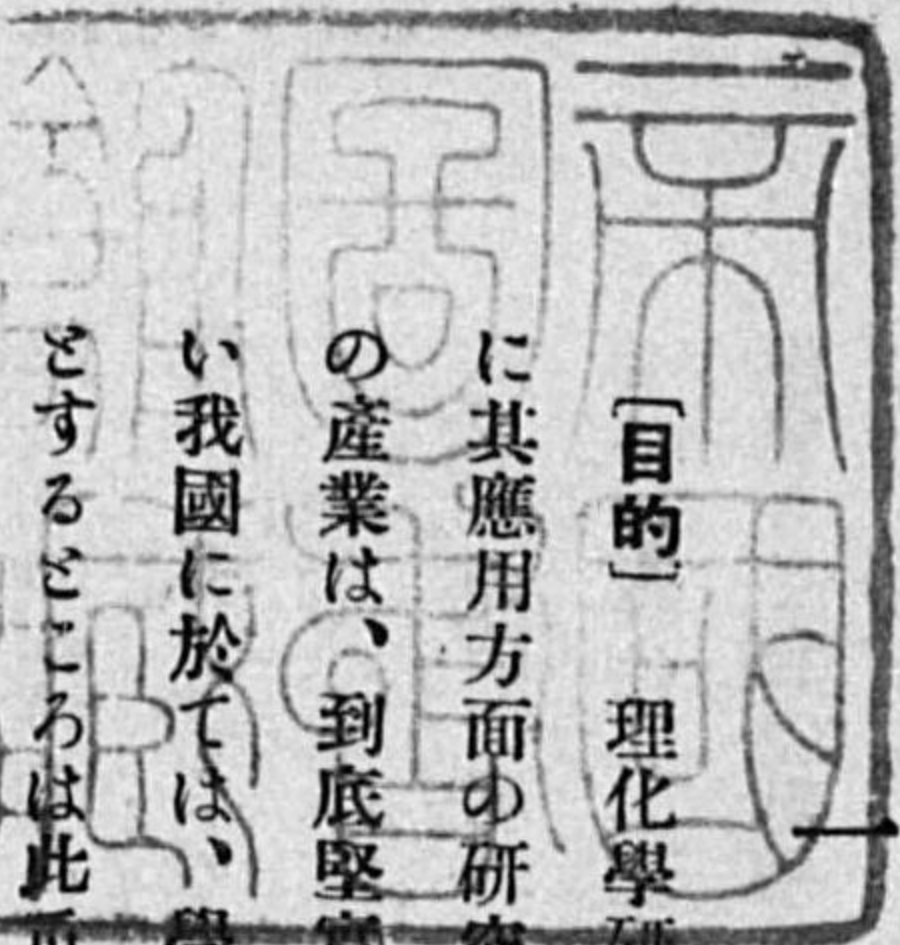
八、前年度決算……………三三

九、特許權……………三三

附錄 出版物、製作品、役員名簿、構内建物配置圖……………一

財團法人 理化學研究所案内

目的及事業



〔目的〕 理化學研究所は産業の發達を圖る爲、純正科學たる物理學及化學の研究を爲し、又同時に其應用方面の研究をも爲すのである。工業と云はず農業と云はず、理化學に基礎を措かない總ての産業は、到底堅實なる發展を遂ぐる事が出来ない、殊に人口の稠密な、工業原料其他物資の少い我國に於ては、學問の力によつて産業の發達を圖り、國運の發展を期する外はない、當所の目的とするところは此重大なる使命を果さんとするにある。

〔研究の發表〕 當所で研究の完成したものは其都度歐文學術報告 Scientific Papers of the Institute

of Physical and Chemical Research 或は理化學研究所彙報の二様の出版物にて發表してゐる。歐文

報告は第一卷より第七卷まで百十四冊、彙報は第一輯より第六輯まで四十二冊既に刊行し廣く一般

に販賣してゐる。又場合によりては内外専門雜誌等にも掲載する。その外研究成績報告講演會によ

目的及事業

つても發表する、此講演會は既に十一回を開催した。

〔工業的試験〕 理化學の應用方面の研究が研究室内で完成した場合は試験的作業を行ひ、工業として成立の見込みあるや否やを確めるのである。此試験で相當の成績を挙げた後は其性質により或は所内に製造設備を爲して作業し、或は他に其製造を托し、又は當所との報償契約の下に新會社が設立されるのである。目下工業として成立し、又は成立せんとして居るものは、後に記載せる如く可なり多い、この應用研究の成功する第一の素因は、背後に堅實なる純正科學の研究がある爲めであるから、幸に此等工業で収益を得寄附を受けた場合は、其一部は純學術方面の研究費に振り當て、一部は發明者への報酬とするのである。

〔機械製作〕 理化學の研究に用ゆる精密機械類は一般の機械類と其趣を異にし、一般工場では製作することの出来ないものが多い。當所は比較的大規模の機械製作工場を設け、所内にて用ゆる機械類の製作及修繕を爲す外、他の註文に應じて研究用の特殊の器具機械類を製作して居る。目下製作して居るものは、附録に記載せる如く未だ種類は少いが、從來海外より輸入して居た精密機械、測定機械等を製作し得るのみならず、外國品よりも優秀の製作品がある。

二 沿 革

〔設立の發端〕 大正二年六月、工學博士藥學博士高峰讓吉氏が米國から歸朝の際、帝國の現状を鑑みて、國民科學研究所設立の必要ある事を高唱した。此計畫は約二千万圓の資金を以て研究所を設立せんとするものであつたが、三十名の實業家及學者より成る調査委員會は、當時の我國財界の事情に徴し、先づ五百万圓位の資金を以て、差當り最も急務とする化學研究所を設立せん事を企劃し、翌大正三年三月、調査委員七名連署して貴衆兩院へ化學研究所設立に就いての請願書を提出したが、不幸議會の解散に會つて其目的を達する事が出来なかつた。

大正三年八月、歐洲大戰勃發し其の餘波を受けて外國との交通は一部杜絶し、醫藥品及工業原料の輸入は梗塞或は制限せられ、我國の衛生上及産業上多大の障害を來したので、農商務省は化學工業の振興策を講ずる爲調査會を設置し、同年十一月第一回調査會を開きたるに、我國に於ける化學工業の改良發達を圖るには、化學研究所設立を以て第一の急務とし農商務大臣に建議書を提出した。

大正四年三月、第二回の化學工業調査會に於いて、偶々委員中に化學のみの研究では其範圍が狹過ぎるゆへ、物理學及化學の兩方面に亘る理化學研究所を設立しては如何との議起り、此議に對し各委員多數賛同し、長井長義、渡邊渡、高松豊吉、櫻井錠二、古在由直の五博士を特別委員に擧げて、實行方法を一任する事になつた。仍て右特別委員等は、直ちに商工局長及大學教授等と相會し、更に數回の協議を重ね設立の要旨、設立計畫の概要、研究事項等を協定し、曩に有志の計畫せる化學研究所設立案との連絡統一を得、澁澤、菊池、山川の三爵及中野武營氏並に前記特別委員主唱者となり、大正四年四月、設立に關する草案を主なる實業家及當路者に送付して其賛同を求め、茲に理化學研究所設立の曙光を見るに至つたのである。其當時起草された設立趣旨は次の通りである。

理化學研究所設立ノ趣旨

明治維新以降帝國ノ文明ハ長足ノ進歩ヲ爲シタリト雖、其ノ由テ來ル所ヲ察スルニ主トシテ歐米先進諸國ノ模倣ニ勉メタルノ結果ニ外ナラズ。而シテ理化學及之ヲ應用シタル各般ノ技術ニ於テ殊ニ其ノ然ルヲ見ル。想フニ理化學ニ對スル我邦人固有ノ發明トシテハ世界ニ誇稱スベ

キモノ甚ダ鮮ク、學者ハ今尙歐米諸國ニ於ケル研究ノ成果ヲ追蹤スルニ是レ急ニシテ、自ラ進ムデ是等學理ノ獨創的研究ヲ爲サムトスルモ、其ノ設備ト經費トニ欲ク所アリテ未ダ十分ニ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ザルノ實狀ニ在ルハ、遺憾ノ極ト言ハザルベカラズ。吾人ハ固ヨリ永ク此ノ如キ狀態ニ安ムズベキニアラズ。速ニ相當ノ研究所ヲ設立シ此種ノ研究ヲ盛ナラシメ、以テ百般工業ノ根本ヲ啓沃シテ其ノ健全ナル發達ヲ促進スルト共ニ、我國ノ自ラ研究シ自ラ發明シタル所ヲ以テ、久シク外國ニ負ヒ來リシ智能上ノ債務ヲ償却シ、進ムデ世界ノ文運ニ貢獻スルコトヲ期セザルベカラズ。試ニ歐米諸國ニ就テ此種ノ實例ヲ求メムカ、英國ニハ國立理學研究所アリ、佛國ニハ工藝試驗所アリ、北米合衆國ニハ國立標準局アリ、獨逸國ニハ國立理學研究所及ウイルヘルム帝化學研究所アリ、普國ニハ國立材料試驗所アリ、概ネ官公立ノ性質ヲ有ス其ノ他富豪又ハ篤志者ノ建設セル私設ノ營造物ニ至テハ舉ゲテ數フベカラズ。加フルニ各種ノ大工場亦各其ノ試驗所又ハ研究所ヲ附設スルアリ。理化學ノ學理ト之ガ應用ニ關シテハ官民戮協シテ之ガ研究ヲ相競ハザルナシ。歐米列國ニ於ケル文運進暢ノ勢、汪然トシテ當ルベカラザルモノアルハ、其ノ由來スル所決シテ偶然ニアラズト謂フベシ。

今ヤ帝國ハ三大戰役ヲ經テ國威益々揚リ、國際上ノ位置愈々隆キヲ加ヘタリト雖、此勢力ヲ維持シテ倍々之ヲ皇張セムトスルニハ國費ヲ要スルコト彌々多カラザルヲ得ズ。然ルニ我國ハ面積甚大ナラズ、農業鑛業其ノ他原始産業上ノ富源亦豊カナラザルヲ以テ、産業上ノ國是トシテハ一ニ智能上ノ生産ヲ潤澤ナラシメ、以テ是等ノ闕如スル所ヲ補フノ外アルベカラズ。智能上ノ生産ヤ、其ノ源泉トスル所ハ一ニ理化學ノ研究ニ存ス。研究愈々深クシテ之カ應用益々廣キヲ得バ、源泉分流共ニ滾々トシテ盡クルコトナク、此種生産ノ増加亦隨テ旺盛ナルヲ致サム故ニ、理化學ノ研究ト之ガ應用トヲ遺憾ナカラシメムガ爲、茲ニ理化學研究所ヲ設置スルハ寔ニ刻下時勢ノ切要ニ應ズルモノナリ。

殊ニ今次歐洲ノ戰亂アリテ以來列國トノ通商交通一時ニ杜絶セラレ、若ハ甚シク制限セラレ交戰國ハ數多ノ重要品ノ輸出ヲ禁止シタル爲、我邦藥業者及工業者ハ何レモ其ノ必要トスル藥品又ハ原料ノ中之ヲ得ル能ハザルモノヲ生ジ、當時政府ハ是等ニ對シ種々劃策スル所アリシガ時局ハ實ニ幾多重要ナル教訓ヲ我邦人ニ與ヘタリ。隨テ今後醫術上ニ於テハ藥劑ノ獨立ヲ完ウスルノ必要アルコト、又工業上ニ於テハ其ノ基礎タルベキ一定ノ物資ハ之ガ自給ノ途ヲ確立セ

ザルベカラザルコト、殊ニ國防上ニ於テ軍事材料ノ獨立ヲ確保スベキコトヲ一般ニ覺知セシメタリ。就中最モ重要ノ教訓トスベキハ智能上ニ於テ、我邦復々從來ノ如ク常ニ歐米列國ニ倚賴スベカラザルコトヲ深ク感悟セシメタルコト即チ是ナリ。

要之理化學ノ獨創的研究ヲ旺盛ナラシメ、以テ工業其他一般産業ノ發達ヲ期スルト共ニ我邦人ノ發明能力ヲ發揮シテ、智能上ノ生産力ヲ充實スルハ、我邦目下ノ急務ナルノミナラズ、永遠ニ富強ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル所以ニシテ、理化學研究所ノ設置ハ此目的ヲ達セムトスルニ外ナラズ。吾人這般之ガ設立ヲ企圖スルヤ、政府ハ理化學研究所國庫補助法ヲ發布シテ十年間ニ二百萬圓ノ補助金ヲ交付セラレムトシ、畏クモ皇室ニ於テモ亦御下賜金ノ御内儀アルヲ拜聞セリ。希クバ江湖ノ諸士吾等ノ意ノ在ル所ヲ諒トセラレ、奮テ此舉ニ賛同シ、十分ノ助力ヲ與ヘラレムコトヲ。

大正四年四月

斯くて此理化學研究所の設立を促進せんが爲めに、大正四年六月時ノ總理大臣大隈伯爵は内務、

大藏、文部及農商務各省の關係當局、學者及實業家を私邸に招致して設立協議會を開き、超えて大正五年一月、澁澤男爵外十一名連署して内閣總理大臣、大藏大臣及農商務大臣へ、設立計畫に對し政府の補助を仰がん事を建議した。

理化學研究所設立ニ關スル建議

世界ノ文運ニ貢獻シ以テ益々國威ヲ宣揚スルト共ニ、百般工業ノ根本ヲ啓沃シ、以テ國富ノ増進ヲ期センニハ、理化學ニ關スル獨創的研究ヲ旺盛ナラシメザルベカラズ、而カモ今次ノ歐洲戰亂ハ今後益々軍事材料ノ獨立、工業物資ノ自給ヲ企畫スルノ緊要ナルコトヲ教へ、吾人ヲシテ理化學研究ノ必要ヲ愈々痛切ニ覺知セシメタリ。然ルニ我國ニ在リテハ、從來此種ノ研究機關ニ於テ闕クル所アルヲ以テ、民間有志ニ於テ理化學研究所設立ノ計畫アリ。然ルニ此事業タルヤ、少ナカラザル資金ヲ要シ、民間有志ノ醜金ノミヲ以テハ到底所期ノ目的ヲ達スル事能ハザルガ故ニ、政府ハ國家事業トシテ之ヲ助成シ、理化學ノ研究ヲシテ遺憾ナカラシメ、以テ國運ノ發展ヲ期スル爲メ、速カニ適當ノ措置ヲ採ラム事ヲ切望ス。

右別紙豫算概算書相添へ、謹テ及建議候也（豫算概算書省略）

大正五年一月二十一日

〔國庫補助に關する法律〕 政府に於ても豫てより設備の完全なる研究機關設置の必要を認めて居たので、前記大正五年一月の建議に基き、第三十七帝國議會に理化學を研究する公益法人に對し國庫補助を爲す法律案と、大正五年度に於て補助すべき金二十五萬圓の追加豫算とを提出せるに、兩院の協賛を得、大正五年三月六日同法律案が公布せられた。

法律第十六號

第一條 産業ノ發達ニ資スル爲理化學ヲ研究シ其成績ノ應用ヲ圖ルコトヲ目的トスル公益法人

ノ一ニ對シ政府ハ本法施行ノ日ヨリ十年ヲ限り毎年二十五萬圓以内ヲ補助スルコトヲ得

前項補助金ノ總額ハ二百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

本法施行期日ハノ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 前條法人ノ業務ハ農商務大臣ノ監督ニ屬ス

農商務大臣ハ前條ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケタル法人ノ業務ヲ指揮監督シ之ガ爲必要ナル命令

又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ定ム

此補助金に就ては大正五年度より同十一年度迄に百六十五萬圓の交附を受けたが、其後當所の研究を更に一層盛大にする爲め再び第四十六帝國議會で補助金に關する改正法律案が通過し、大正十二年度より向十ヶ年間毎年二十五萬圓宛經常費の補助を受くる事になつた。此法律案は大正十二年四月二日、左記の通り公布せられた。

法律第四十號

大正五年法律第十六號中左ノ通改正ス

第一條中「十年」ヲ「十七年」ニ「二百萬圓」ヲ「四百十五萬圓」ニ改ム

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔設立〕 基礎準備略々成り、第一回、第二回と設立發起協議會を開き、澁澤男爵を創立委員長に櫻井、高松、團の三博士、和田豊治、大橋新太郎、中野武營、莊清次郎の四氏を常務委員に推舉し建築及設備に就ては物理學部を長岡半太郎、大河内正敏兩博士に、又化學部を池田菊苗、井上仁吉兩博士に囑託した。そこで委員長及常務委員は設立の趣意書、計畫書及研究所の行はんとする事業

と産業上との關係を明かにした「理化學研究所の事業と産業界」を刊行して各方面に配布し、傍ら實業家を歴訪して寄附金の勧誘に努められたところ、富豪及篤志家より多數の寄附金が集つて、大正六年三月十九日迄に其申込總題二百十八萬七千圓に達した。澁澤男爵は設立者の總代となつて東京府知事を経て農商務大臣に財團法人理化學研究所設立の許可を申請した。農商務大臣よりは直ちに指令第三六九二號を以て許可された。實に大正六年三月二十日である。

〔御下賜金〕 當所設立の事天聽に達し、大正六年四月二十六日左記寫の通り金百萬圓御下賜の恩命に浴した。當所は大御心に副ひ奉らんが爲め、恩賜金は基金として永遠に保存する事に決議せられた。

財團法人理化學研究所

一金百萬圓 今般其ノ所設立ノ趣被聞食學術及産業御獎勵ノ思召ヲ以テ御補助トシテ大正六年以降十ヶ年間金十萬圓宛即前記ノ通下賜候條
聖旨ヲ奉體シ屢勉努力以テ其ノ目的ヲ遂成セムコトヲ期スベシ

大正六年四月二十六日

宮 内 省

〔總裁〕 當所の總裁には、皇族を奉戴することに寄附行爲で定められてゐる。仍て設立者一同の希望により、伏見宮貞愛親王殿下を總裁として奉戴の議を其筋に願ひ出たるに、大正六年三月二十八日御承諾被爲在たる旨の通牒があつた。總裁奉戴式は大正八年十一月二十六日、帝國ホテルに殿下の台臨を仰ぎ、關係者一同參列して舉行した。其際左の令旨を賜つた。

令旨 理化學ハ文化ノ淵源富強ノ根本ニシテ之ガ研究ヲ務ムルハ即チ國運發展ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル所以ナリ貞愛此ノ趣旨ヲ以テ設立セラレタル本所ノ總裁ニ推サレタルハ深ク欣ヒトスル所ニシテ職員及有志ノ協賛ニ依リ本所ノ事業ヲ遂行シ邦家ノ爲貢獻スル所アラムコトヲ庶幾フ職員及協同ノ諸員斯ノ意ヲ體シ益々努ムル所アレ

大正八年十一月二十六日

大勳位功二級 貞 愛 親 王

總裁宮殿下には其後大正十一年十月二日當所に成らせられ、大河内所長より設立以來の經過、建築設備並に研究の概況等を聞召され、次で各館を隈なく御檢閲あらせられ、且つ各研究室主任より研究の現況並に其成績等に就て、御熱心に説明を聞召された後、研究員一同を御前に召され左の令旨を賜つた。

令旨 惟フニ理化ノ學ハ國防及産業ノ基礎ニシテ世界各國銳意之ガ研究ニ從事セザルハナシ今ヤ本所ノ建築設備モ略ボ竣リ創業以來日猶淺キニ係ラズ其成績ノ見ルベキモノアルハ予ノ深ク欣悦トスル所ナリ諸子益々奮勵努力シテ國家ノ富強ニ資セヨ

大正十一年十月二日

財團法人理化學研究所總裁大勳位功二級 貞 愛 親 王

其後總裁伏見宮貞愛親王殿下には大正十二年二月四日薨去あらせられ、新に伏見宮博恭王殿下を總裁として奉戴の儀が允許あらせられたので、大正十二年十一月二十日、殿下の台臨を當所に仰ぎ奉戴式を舉行し、博恭王殿下より左の令旨を賜つた。

令旨 惟フニ理化學ノ研究ハ文化ノ開發ヲ促シ富強ヲ増進スル所以ニシテ國運發展ノ基礎實ニ此ニ存ス今予先考ノ後ヲ承ケテ新ニ本所ノ總裁ニ推サレタルハ深ク欣幸トスル所ナリ冀クハ職員及協賛諸員ノ補翼ニ依リ益々本所ノ事業ヲ擴充シテ紹述ノ實績ヲ舉ケンコトヲ諸子ヨクスノ意ヲ體シテ國家ニ貢獻スル所アレ

大正十二年十一月二十日

財團法人理化學研究所總裁大勳位功四級 博 恭 王

〔所長〕 大正六年設立當時の所長は、理學博士男爵菊地大麓氏であつたが、就任後間もなく急病にて卒去され、同年十月工學博士男爵古市公威氏が其後を繼がれた。男爵は設立勿々非常に多忙の際、熱心其職に盡されたが、劇務の爲健康を害せられ大正十年九月辭任された爲、爾來工學博士子爵大河内正敏氏が就任し今日に及んで居る。

三 組 織

〔資金〕 當所は御下賜金、政府補助金及法人並に個人の寄附金より成る財團法人で、商工省の管轄に屬して居る、昭和二年四月一日現在資金總額は五百八十七萬八千八百圓で、今まで敷地、建物及諸設備に投ぜられた額は四百三十一萬三千一百餘圓である。

〔會員役員及職員〕 昭和二年十月現在、法人組織による會員は百七十九名で、役員は總裁、副總裁各一名、顧問三名、理事十三名、監事五名、評議員七十二名である。(附録役員名簿参照)
職員は四百八十四名で、夫れを大別すると

研究に直接従事する者 計二百四十七名

内譯	主任研究員	二十四名	研究員	十名
	助手	四十八名	囑託	三十二名
	研究生	八十八名	雇員	四十五名

研究の介助を爲す者 技師以下九十一名

工作實習中の者 徒弟十一名

試験作業に従事する者 技師以下百三名

事務に従事する者 主事一名及書記以下六名

雑役に従事する者 雇以下二十四名

〔研究室〕 研究室は夫々主任研究員の姓名を冠し、現在飯盛、池田、石川、石田、西、西川、西村、本多、大河内、和田、片山、高嶺、長岡、瀬藤、久保田、眞島(利)、眞島(正)、寺田、淺原、喜多。木村、木下、鈴木(庸)、鈴木(梅)の二十四室ある。尤も二十四研究室全部が當所内にあるのではなく、便宜上主任研究員の所在地に置いてある。即ち石川、本多及眞島(利)研究室の一部若くは全部は、東北帝國大學總長許可の下に同大學内に、又片山研究室は同様東京帝國大學内に喜多、

木村兩研究室は京都帝國大學内に在る。

而して各研究室は夫々室専有の豫算を持ち、經費の用途は主任研究員に一任されて居て、室の設備に多くを支出するも、又人件費に多くを使用するも夫れは全く自由である。猶研究室には左の六係が配屬して居る。

1 倉庫係

一、研究用貯藏物品の配給に關する事項

二、研究室用物品臺帳及出納帳簿の記入、整理に關する事項

三、研究室の取締竝に營繕に關する事項

此倉庫係は研究室で日常に使用する消耗品、各種藥品、其他最も多く使ふ雜貨をも貯藏し、各研究室及所内各部へ一定の價格で供給し、割當てられた豫算から差引いてゐる。

2 圖書係

一、圖書の保管、整理に關する事項

二、圖書の購入に關する事項

三、圖書閱覽に關する事項

四、製本に關する事項

3 編纂係

一、刊行物に關する事項

編纂係は當所研究員の中から委員を選擧し、其委員は歐文報告及邦文彙報の原稿の整理、出版手續、又は内外國各方面への出版物の寄贈或は交換に就いて協議を開く等、當所から刊行する出版物一切の仕事をする事になつて居る。

4 工作係

一、機械器具の製作竝に修繕に關する事項

二、機械器具及材料の購入、竝に保管に關する事項

工作係は設計製圖、旋盤、仕上、精密機械、調整、硝子、レンズ、木工、鑄工、鍛工の諸部から成つて居て、技師以下八十五名居る。研究室から注文の諸機械器具の製作、竝に修理等は勿論研究所外よりの注文に對しても出来る丈け應じて居る。

5 電 氣 係

一、動力、電燈、電話其他電氣機に關する事項

6 機 械 係

一、汽機、汽罐、液體空氣、壓搾瓦斯其他に關する事項

〔事務室〕一般事務は左の三係で分掌して居る。

1 庶 務 係

一、所印及職印の保管

二、役員、會員及職員の進退に關する事項

三、役員會議に關する事項

四、機密に關する事項

五、建設工事に關する事項

六、土地建物及樹木の管理に關する事項

七、事務室用物品の購入保管に關する事項

八、構内取締に關する事項

九、電話交換に關する事項

一〇、製作品の販賣に關する事項

二、前項の外他係に屬せざる事項

2 會 計 係

一、豫算決算に關する事項

二、御下賜金、政府補助金及一般寄附金に關する事項

三、現金、有價證券の出納保管に關する事項

四、現金、有價證券出納諸帳簿及證據書類の整理に關する事項

五、取引銀行に關する事項

3 炊 事 係

一、所員の賄に關する事項

二、庖厨器具類の購入並に保管に關する事項

組 織

三、食料品の購買、出納並に帳簿整理に關する事項

四 寄附行爲、規則及規程

〔寄附行爲〕

第一章 目的及事業

第一條 本所ハ産業ノ發達ニ資スル爲理化學ヲ研究シ其ノ成績ノ應用ヲ圖ルコトヲ以テ目的トス

第二條 本所ハ前條ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設ヲ爲スノ外左ノ事業ヲ行フ

- 一、一定ノ事項ヲ指定シテ研究ヲ依頼シ又ハ本所ノ設備ノ利用ヲ希望スル者アルトキハ其ノ需ニ應ズルコト
- 二、研究及發明ヲ獎勵スベキ施設ヲ爲スコト
- 三、研究及調査ノ成績ヲ公ニスル爲印刷物ヲ刊行シ又ハ講話ヲ爲スコト

第二章 名稱及事務所

第三條 本所ハ財團法人理化學研究所ト稱ス

第四條 本所ハ事務所ヲ東京市本郷區駒込上富士前町三十一番地ニ置ク

第三章 會員及資産

第五條 本所ノ事業ヲ翼賛シテ金錢又ハ物件ヲ寄附シタル者ヲ會員ト稱ス

第六條 本所設立ノ日ニ於ケル資産ハ左ノ如シ

- 一、現金拾萬五千圓也
- 二、設立初年目ニ於ケル寄附年賦金五拾萬五千七百圓也
- 三、設立二年目ニ於ケル寄附年賦金四拾五萬五千七百圓也
- 四、設立三年目ニ於ケル寄附年賦金四拾五萬四千六百圓也
- 五、設立四年目ニ於ケル寄附年賦金參拾參萬參千圓也
- 六、設立五年目ニ於ケル寄附年賦金參拾參萬參千圓也

第七條 本所ノ資産ハ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申シ其ノ一部ヲ基金ニ充ツ
基金ハ他ノ資産ト區別シテ之ヲ管理保存スルモノトス但シ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申シ

之ヲ處分スルコトヲ得

第八條 本所ノ資産ハ國債證券又ハ確實ナル有價證券ヲ買入レ若ハ郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ預入レ利殖ヲ圖ルモノトス

第九條 本所ノ經費ハ基金ノ利息及其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十條 本所ノ豫算ハ毎年度評議員會ノ議決ヲ經テ決算ハ評議員會ノ認定ヲ經テ總裁ニ上申スルモノトス

第十一條 本所ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第四章 總裁、副總裁及顧問

第十二條 本所ニ總裁一人及副總裁二人ヲ置ク

總裁ニハ皇族ヲ奉戴ス

副總裁ハ總裁之ヲ委囑ス

副總裁ハ總裁ヲ補翼ス

第十三條 總裁ノ諮詢ニ應ズル爲顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ總裁之ヲ委囑ス

第五章 役員

第十四條 本所ニ理事二十人以内監事十人以内ヲ置ク

理事及監事ハ評議員會ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委囑ス

前項ニ依リ選任セラレタル理事ノ就任スルニ至ル迄ノ間ハ設立者ヲ以テ理事トス

第十五條 本所ニ所長一人ヲ置ク

所長ハ理事中ヨリ總裁之ヲ委囑ス

所長ハ本所ヲ代表ス

所長ハ理事過半数ノ同意ニ依リ委任ヲ受ケタル事務ニ付之ヲ專行ス

所長故障アルトキハ總裁ノ指名シタル理事代テ其ノ職務ヲ行フ

第十六條 理事及監事ノ任期ハ三年トス但シ再任スルコトヲ妨ケス

補缺役員ノ任期ハ前任ノ者ノ殘任期間トス

第十七條 本所ニ評議員百五十人以内ヲ置ク

設立當初ノ評議員ハ設立者ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委囑ス

評議員ノ補充ヲ要スルトキハ評議員會ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委囑ス

第六章 補 則

第十八條 本寄附行爲ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條 將來本寄附行爲ノ條項ヲ變更セムトスルトキハ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申シ

主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

前項評議員會ノ議決ハ事務所ヲ變更スル場合ヲ除クノ外評議員總數三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

〔財團法人理化學研究所規則〕

第一章 評 議 員 會

第一條 定時評議員會ハ毎年一月及六月所長之ヲ招集ス但シ所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ招集スルコトヲ得

評議員五分ノ一以上又ハ監事ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ所長ハ臨時

評議員會ヲ開クコトヲ要ス

第二條 評議員會ノ議長ハ評議員會ニ於テ毎回評議員中ヨリ之ヲ互選スルモノトス

第三條 評議員會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ其ノ議決ヲ以テ指名選舉法ニ依ルコトヲ得

第四條 評議員會ハ評議員總數ノ五分ノ一以上出席スルニ非レハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但シ同一事項ニ付再度招集スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

評議員會ニ出席セサル評議員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ他ノ評議員ヲ以テ代理人ト爲スコトヲ得

第五條 評議員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六條 評議員會ニ於ケル議事ノ經過ハ議事要録ニ登録シ議長及出席評議員二名以上之ニ署名スルモノトス

第二章 理 事 會

第七條 本所ノ事務ハ理事過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ行フ但シ理事過半數ノ同意ヲ以テ其ノ事務ノ一

寄附行爲、規則及規程

部ヲ所長ニ委任スルコトヲ得

第八條 所長ハ本所ノ事務ニ付協議ヲ爲ス必要ノ都度理事會ヲ招集スルコトヲ得

第九條 理事會ニ於テ出席者過半数ニ達セサルトキハ所長ハ書面ヲ以テ缺席者ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

第十條 理事會ノ議長ハ所長ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條 第六條ノ規定ハ理事會ニ之ヲ準用ス

第三章 職 制

第十二條 本所ニ所長ノ外左ノ職員ヲ置ク

研究員	若干人	助手	若干人
技師	若干人	技手	若干人
主事	一人	書記	若干人
雇	若干人		

第十三條 所長ハ所務ヲ統理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第十四條 研究員ハ所長ノ推薦ニ依リ理事會ノ議ヲ經テ總裁之ヲ委囑ス

技師及主事ハ所長ノ推薦ニ依リ理事會ノ議ヲ經テ之ヲ任免ス

助手、技手、書記及雇ハ所長之ヲ任免ス

第十五條 所長ハ業務ノ都合ニ依リ囑託員又ハ研究生ヲ置クコトヲ得

第四章 雜 則

第十六條 副總裁、顧問及監事ハ理事會及評議員會ニ列席シ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

第十七條 評議員會ニ報告スル決算書ニハ監事ノ意見ヲ添フヘシ

第十八條 所員ノ給與ニ關スル規定其ノ他本所ノ業務執行ニ必要ナル規定ハ理事會ノ議ヲ經テ之ヲ

定メ評議員會ニ報告ス

第十九條 將來本規則ノ條項ヲ變更セムトスルトキハ評議員會ノ議決ヲ徑テ總裁ニ上申スルコトヲ

要ス

〔財團法人理化學研究所職員ノ爲シタル發明實用新案及意匠ニ關スル規程〕

第一條 本規程ニ於テ職員ト稱スルハ財團法人理化學研究所規則第十二條及第十五條ニ規定スル職員ヲ謂フ

第二條 職員カ本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ特許ヲ受クルノ權利ハ本所之レヲ承繼ス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ

第三條 前條ノ發明ニ關スル特許權ハ發明者ノ希望ニ因リ本所ノ承諾アリタルトキハ本所ト發明者トノ共有ト爲スコトヲ得

第四條 前條ノ規定ニ依リ特許權カ本所ト發明者トノ共有ニ係ル場合ニ於テハ特許料ハ本所ノ負擔トス但シ發明者カ本所ノ同意ヲ得テ持分ヲ讓渡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 本所カ第二條ノ規定ニ依リ特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル場合ニ於テ發明者ニ支拂フヘキ補償金ハ特許發明ノ實施ニ因ル利益金、特許發明ノ實施ノ許諾ニ對シテ支拂ヲ受ケタル報酬金、法律ノ規定ニ依リ實施權ヲ有スル者ヨリ支拂ヲ受ケタル補償金、特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權

ノ讓渡ニ因リ對價トシテ支拂ヲ受ケタル金額及特許權ノ制限、收用又ハ取消ニ因リ政府ヨリ補償金トシテ支拂ヲ受ケタル金額ノ百分ノ五十トス但シ發明ニ關スル事情ヲ斟酌シ百分ノ十ノ範圍内ニ於テ本所ノ認定ニ依リ之レヲ増減スルコトヲ得

數人ノ職員カ共同シテ發明ヲ爲シタルトキハ各發明者ニ支拂フヘキ補償金ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス此ノ場合ニ於テ各發明者ノ受クヘキ補償金額ハ本所ノ定ムル處ニ依ル

第三條ノ規定ニ依リ本所ト發明者ト特許權ヲ有スル場合ニ於テハ發明者ノ持分ヲ以テ前項ノ補償金ト看做ス

特許權取得後五年ヲ經過スルモ第一項ノ補償金ヲ支拂フコト能ハサルトキハ本所ハ發明者ト協議シ相當ノ補償金ヲ支拂フモノトス

第六條 國其ノ他ノ法人又ハ個人ヨリ依託ヲ受ケタル研究生カ本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ之レヲ指導スル主任ノ研究員ト共同シテ發明ヲ爲シタルモノトス

第七條 職員カ本所ニ於テ職務上特許法第三條第二號乃至第三號ノ事項ニ付特許ヲ受クルコトヲ得サル發明ヲ爲シタルトキハ本所ハ物ノ發明ニ在リテハ其ノ物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ

權利ヲ專有シ方法ノ發明ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及其方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

前項ノ場合ニ於テ本所ハ發明者ト協議シ相當ノ補償金ヲ支拂フモノトス

第八條 第二條ノ規定ニ依リ本所カ職員ノ爲シタル發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル場合ニ於テ本所カ其發明ニ付特許ノ出願ヲ爲ササルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第九條 第二條ノ場合ニ於ケル本所ノ特許出願前又ハ前二條ノ場合ニ於テ發明者カ自ラ發明ヲ實施シ又ハ他人ニ發明ノ内容ヲ知ラシメタルトキハ本所ニ對シテ之レニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ賠償スヘキモノトス

第十條 本規程ハ實用新案若ハ意匠ノ登録ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權若ハ意匠權ニ付之レヲ準用ス

(參照)

規則第十二條 本所ハ所長ノ外左ノ職員ヲ置ク

研究員、助手、技師、技手、主事、書記、雇

規則第十五條 所長ハ業務ノ都合ニ依リ囑託員又ハ研究生ヲ置クコトヲ得

〔財團法人理化學研究所ト研究依頼者又ハ研究生依託者トノ間ニ於ケル特許發明實用新案ノ實施許諾ニ關スル契約規程內規〕

- 一、本所ノ會員ハ本所ノ目的ニ屬スル一定ノ事項ニ付費用ヲ負擔シテ其ノ研究ヲ依頼スルコトヲ得
- 二、本所カ前項ノ依頼ニ應ジ研究ヲ爲ス場合ニ於テ之レニ従事スル本所ノ職員カ發明ヲ爲シタルトキハ特許ヲ受クルノ權利ハ本所ニ於テ之レヲ承繼スルモノトス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ
- 三、本所カ前項ノ發明ニ付特許ヲ受ケタルトキハ本所ハ研究依頼者ニ之レヲ通知スルモノトス
- 四、研究依頼者カ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六月内ニ前項ノ特許發明ニ付實施ノ許諾ヲ求メタルトキハ本所ハ實施期間實施區域實施方法報酬額其ノ他ノ實施ノ條件ヲ協議シ、協議調ヒタルトキハ優先シテ之レニ實施ヲ許諾シ他人ニ其ノ實施ヲ許諾セサルモノトス
- 五、前項ノ規定ニ依リ研究依頼者ニ特許發明ノ實施ヲ許諾シタルトキハ其ノ限度ニ於テ本所ハ自ラ特許發明ノ實施ヲ爲ササルモノトス

- 六、第四項ノ規定ニ依リ本所カ研究依頼者ニ特許發明ノ實施ヲ許諾スル場合ニ於テ研究依頼者カ本所ニ支拂フヘキ報酬額ハ特許發明ノ實施ニ依リ得タル利益金ノ百分ノ三十以上ニ相當スル金額トス
- 七、前項利益金ハ特許發明實施ノ爲投下セラレタル資本金ノ百分ノ十ヲ控除シタルモノヲ謂フ
- 八、第六項ノ報酬金額ハ實施權者ニ營業年度ノ定メアル場合ニ於テハ營業年度ニ依リテ計算シ營業年度ノ末日ヨリ三十日内ニ營業年度ノ定メナキトキハ曆年ニ依リテ之レヲ計算シ翌年一月三十一日迄ニ本所ニ支拂フヘキモノトス
- 九、第四項ノ規定ニ依リ特許發明ノ實施ノ許諾ヲ受ケタル者カ許諾ノ日ヨリ一年内ニ其ノ實施ヲ爲ササルトキ、其ノ實施ヲ繼續シテ六月以上中止シタルトキ、其ノ實施ニ付充分ノ努力若ハ施設ヲ爲ササルモノト本所ニ於テ認メタルトキ又ハ本所ニ支拂フヘキ報酬金ノ支拂ヲ遲滯シ其ノ他ノ實施ノ條件ニ違背シタルトキハ本所ハ特許發明ノ實施ノ許諾ヲ取消シ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

十、財團法人理化學研究所研究生規程ニ依リ國其ノ他ノ法人又ハ個人ヨリ依託ヲ受ケタル研究生カ

本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ之レヲ指導スル主任ノ研究員ト共同シテ發明ヲ爲シタルモノトシ特許ヲ受クルノ權利ハ本所ニ於テ之レヲ承繼スルモノトス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ

十一、本所カ前項ノ發明ニ付特許ヲ受ケタル場合ニ於ケル研究生依託者ニ對スル實施權ノ許諾ニ關スル條件及許諾ノ取消ニ付テハ第四項第五項第八項及第九項ノ例ニ依ル

十二、前項ノ規定ニ依リ本所カ特許發明ノ實施ヲ許諾スル場合ニ於テ研究生依託者カ本所ニ支拂フヘキ報酬額ハ研究生ヲ指導シタル主任研究員ノ意見ヲ聽キ本所ト研究生依託者ト協議シテ之レヲ定ム

十三、實用新案ノ登録ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權ニ付テモ本内規ノ例ニ依ル

〔財團法人理化學研究所研究生規程〕

- 第一條 研究生ハ官廳公私團體若ハ個人ノ依託ニ依リ研究員ノ指導ノ下ニ研究ニ從事スルモノトス
- 第二條 研究生ハ専門ノ素養アル者ニシテ研究室主任ノ推薦ニ依リ所長之ヲ任用ス

第三條 研究生ハ無給トス但シ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

第四條 研究生ノ研究ニ要スル諸費ハ依託者ノ負擔トス但シ時宜ニ依リ本所之ヲ支辨スルコトアル

ヘシ

第五條 研究生ノ研究期間ハ二ケ年以内トス但シ研究ヲ繼續セムトスル場合ニ於テハ研究室主任ノ許可ヲ得テ延期スルコトヲ得

第六條 研究生疾病其ノ他ノ事故ニ依リ成業ノ見込ナキトキハ所長之ヲ免ス

第七條 研究生退所セントスルトキハ理由ヲ具シ其ノ旨所長ニ出願スヘシ

〔財團法人理化學研究所工場技術練習生規程〕

第一條 練習生ハ官廳公私團體若ハ個人ノ依託ニヨリ工作係指導ノ下ニ實習ニ従事スルモノトス

第二條 練習生ハ相當ノ經歷アル者若ハ試験ノ上適當ト認メタル者ノ内ヨリ所長之ヲ任用ス

第三條 練習生ハ無給トス但シ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

第四條 練習生ノ實習ニ要スル諸費ハ本所之ヲ支辨ス但シ時宜ニ依リ依託者ノ負擔トスルコトアル

ヘシ

第五條 練習生ノ實習期間ハ二ケ年以内トス但シ實習ヲ繼續セムトスル場合ニ於テハ工作係ノ許可ヲ得テ延期スル事ヲ得

第六條 練習生疾病其ノ他ノ事故ニ依リ成業ノ見込ナキトキハ所長之ヲ免ス

第七條 練習生退所セントスルトキハ理由ヲ具シ其ノ旨所長ニ出願スヘシ

五 位置、建物及設備

〔位置〕 當所は本郷、小石川兩區の最北部の境界に跨つてゐて、敷地一万二千坪、其購入價格は四十三万圓である。即ち

本郷區駒込上富士前町

七千七百六十六坪

小石川區駕籠町

四千二百三十四坪

〔建物及設備〕 當所の建物及設備は、大正七年度工事に着手し、大正十一年度に完成の豫定であつたが、工事着手後建設諸材料及工賃等の暴騰したのと、寄附金の収入が豫期の通りにならなかつ

たので、已むを得ず緊急を要するものから逐次施工したるが爲め、豫定の期間内に完成するに至らず、大正十四年度内に於て漸く豫定計畫の工事を終了した。而して研究の進むと共に従來の研究設備の擴張を必要とするもの、或は新に半工業的實驗設備を爲す必要を生じた爲め、建物及設備が追加されて、創立以來昭和元年度末迄に投じた建設費は、敷地費を併せて總數四百參拾壹萬參千百拾貳圓拾錢に達した、其明細は左の通りである。

建物の名稱は、正門を入り向つて左側を奇數、右側を偶數として、凡て番號を附けて居る。

- 第一號館 飯盛、池田、和田、久保田、眞島(利)、鈴木(庸)、鈴木(梅)の七研究室、外に倉庫係、圖書室、天秤室、オゾン室、燃燒室、引火性液蒸溜室、毒瓦斯室
- 第二號館 石田、西川、西村、大河内、高嶺、長岡、眞島(正)、寺田、淺原の八研究室、常溫室、材料試驗室、圖書室、講演室、事務室、食堂
- 第三號館 石田、西川、高嶺、長岡の四研究室
- 第四號館 西、瀬藤の二研究室、電力室及電氣爐室
- 第五號館 各種交直流發電機室、液體空氣、酸素及窒素の製造工場

第六及八號館 機械工場、木工場、硝子工場、精密機械室、設計製圖室、内燃機關室

附屬——鑄工及鍛工場

第七號館 クラリット、電解鐵、アニリン等の試験工場

第十三、十五、十七號館、ビタミン A ニ關スル研究及作業場

第十一號館 アセトン、無水フタル酸、テトラリン、食用酢及合成酒の試験工場
是等建物の延坪數と建築費及設備費は左の通りである。

建物明細書

昭和二年四月現在

名	稱	構	造	延	坪	數	價	額	備	考
第一號館	煉瓦三階			一、一二三			五六〇、八六五・五二		化學研究	
第二號館	鐵筋四階			一、一五一			五〇一、八二七・八七		物理研究	
第三號館	鐵筋二階			三三二			一一一、三四八・一五		物理研究	
第四號館	同上			三二五			一〇八、〇三五・八五		物理研究	

位置、建物及設備

第五號館	煉瓦平家	一六七	六一、二三九・七九	電力、酸素
第六號館	鐵筋二階	四一一	一〇六、〇七〇・四五	機械製作
第七號館	鐵骨平家	一〇〇	一八、九一四・七九	實驗室
第八號館	同上	一一三	一五、六八一・三五	機械製作
第九號館	同上	一二〇	一五、九〇七・九五	實驗室
第十號館	同上	九六	九、三六六・八〇	實驗室
第十一號館	同上	一三〇	三〇、五二〇・五六	實驗室
第十三號館	同上	七二	一四、八六九・八五	ヱイタミン動物試驗室
第十五號館	同上	六〇	八、五三三・〇六	(外ニ三〇坪) ヱA製造
第十七號館	同上	一一四	一六、七一九・五一	(外ニ六〇坪) ヱA製造
ヱA研究室	木造平家	二七	四、七二八・二四	
ヱA調劑室	同上	三六	二、五五七・四三	

臨時實驗室	同上	一四五	八、〇〇三・九七	水素一五、アセチレン一、アミノ酸一八、毒瓦斯三、星一、アミトン三六、窒素六、タンタルス六、コランダム五九
給水ポンプ室	煉瓦地階	五〇	二八、三九一・一〇	一部高壓實驗室
電氣爐室	鐵筋平家	三〇	八、五九一・五二	
鍛冶場	同上	一七	五、六七一・〇〇	
鑄物場	同上	四〇	一二、七〇七・五〇	
蓄電池室	木造平家	一八	七、四〇三・九四	一部木造
藥品庫	鐵骨平家	一五	四、六一三・〇七	
下水ポンプ室	木造平家	六	二、六〇三・七〇	
舊事務所	木造二階	五四	二、九六九・四八	
同上倉庫	鐵筋平家	六	一、九五一・五八	
門番所	木造平家	九	三、三二五・七六	

住宅	木造平家	二五	四、四八四・五六
同上	木造二階	四三	四、九四六・〇五
倉庫	木造平家	六四	一、八三〇・四〇
休憩室	木造平家	二四	三、八三一・二〇
浴室	同上	六	七〇八・七〇
浴室便所	同上	一〇	四、六七九・二四
便所	同上	四	二、一六九・〇七
計		四、九三三	一、六九六、六三六・三七

設備明細書

(地所及ビ構内設備費モ含ム)

區別	價額	區別	價額
電気配線共	三二二、六三七・四〇	瓦斯水道	二七〇、三四九・三五
タンス		井戸共	

六 昭和二年度研究項目

煖房	地階室及煙突共	二一八、四二九・一八	機械器具	一、〇六三、二九〇、九一
什器		一四〇、三七一・八四	書籍	一一五、九〇四、七九
構内設備		六四、一八一・〇八	地所	四三一、三一〇、八八
合計		二、六一六、四七五・四三		

〔研究事項〕 昨年度に於て研究事項は百七十一種であつたが、本年度に在ては百七十五種に増加した。此等研究事項は、各研究室の主任研究員が随意に撰擇するのである、又研究の範圍に於ても何等の制限をも置いてゐない、例へば化學者が物理の研究に立入ることも、物理學者が化學の研究に没頭することも其人の自由である。併し其仕事の成績に就ては、研究者は絶體の責任を負つた居る。本年度の項目は次の如くである。

理化學研究所案内

多チオン酸鹽の諸反應速度論

亞酸化物に關する研究

金屬硫化物に對する過熱蒸氣の作用

化學變化の熱力學的研究

非水溶液の電氣化學的研究

IV 石田研究室

地球公轉運動の光速度に及ぼす影響の有無

運動せる屈折媒質中に於ける Doppler 效果

活性狀態の遷移と化學反應

不均一系化學反應速度

感應反應に就て

電子の荷電量測定及び之に關聯する諸問題に就て

窒素の帶狀スペクトル線の構造に就て

四四

研究員 理學博士 石川總雄

研究員 理學博士 石川總實

研究員 理學博士 石川總雄

研究生 理學士 柴田榮一

研究生 理學士 貞貢

囑託 理學士 土井不彙

囑託 理學士 阿部邦彦

囑託 理學士 宮本進

囑託 理學士 宮本進

囑託 理學士 宮本進

研究員 ドクトル、オブ、石田義雄

研究生 フイロソフイ、檜山繁

研究生 ドクトル、オブ、石田義雄

研究生 フイロソフイ、檜山繁

ウインの方法による帶狀スペクトル線の研究

Abklingzeit und Verweilzeit に就て

言語等の音響的研究

V 西研究室

異種誘電體境界面及誘電體と金屬との境界面に起る電氣的現象

油中に於ける放電の研究

誘電體表面に於ける放電の研究

コロナ放電の研究

高壓碍子に關する研究

高壓變壓器共振に關する研究

燐の電氣的性質に關する研究

研究員 ドクトル、オブ、石田義雄

雇 フイロソフイ、上島源司

研究員 ドクトル、オブ、石田義雄

研究生 フイロソフイ、安田次郎

研究員 ドクトル、オブ、石田義雄

研究生 フイロソフイ、田村整

研究員 工學博士 本多侃士

助手 工學博士 本多侃士

研究員 工學博士 西健

助手 工學博士 本多侃士

研究員 工學博士 西健

助手 工學博士 本多侃士

研究員 工學博士 西健

助手 工學博士 本多侃士

ピストンリングに関する研究

ピエゾエレキの應用

X 和田研究室

稀土類の分離法

鹽類の吸収スペクトルについて

白金屬及び之と關聯する諸元素の分離法

ガリウム分離及檢出法

硫黃の性質について

硫黃を含める有機化合物の合成

ウラン・プナチン・ベリリウム等の相互分離法

特殊鋼の分析

ニオブ・タンタル・チタン・ジルコニウム等の相互分離法

ルテニウムとオスミウムとの相互分離及定量

研究員 工学博士 大河内正敏

助手 工学博士 海老原敬吉

研究員 工学博士 大河内正敏

助手 工学博士 渡邊俊平

研究員 工学博士 宮本武之助

研究員 理学博士 和田猪三郎

助手 加藤セチ

研究員 理学博士 和田猪三郎

助手 理学博士 齋藤正一郎

囑託 阿藤 賢

助手 理学博士 北島三省

囑託 石川 清一

研究員 理学博士 和田猪三郎

囑託 阿藤 賢

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

XI 片山研究室

アルミニウム及び其合金

タリウムの性質について

氣體、液體の狀性式に就て

電波の吸収の化學的研究

蒸氣の粘度の研究

溶液の比屈折と比容との關係

接觸作用と吸着との關係

氣體の比熱と外力との關係

XII 高嶺研究室

金屬及瓦斯スペクトル線のシュタルク効果

スペクトル線の反轉現象

昭和二年研究項目

囑託 理学博士 飯島俊一郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

研究員 理学博士 和田猪三郎

固溶體に關する研究

炭素に關する研究

錯鹽のX線的研究

液相の蒸氣壓及壓縮率の研究

XIX 喜多研究室

硬化油に關する研究

油脂加水分解並に石鹼に關する研究

石油に關する研究

可塑性物質に關する事項

(イ)特に石炭酸及びフォルマリン縮合物
(ロ)グイスコース其他纖維素製品に就て

XX 木村研究室

研究員 理學博士 淺原源七

研究員 理學博士 山本道太郎

助研究員 工學士 淺原源七

助研究員 工學士 渡邊得之助

助研究員 工學士 今土屋敏一

助研究員 理學博士 淺原源七

助研究員 理學士 中村時定

助研究員 工學士 芝彦一

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 馬詰一

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 馬詰一

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

助研究員 工學士 喜多哲源

セレニウム及びテルリウムスペクトルの研究
稀土屬元素スペクトルの研究

XXI 木下研究室

熱傳導に關する研究

研究員 マスター、オプ、木下正雄

XXII 瀬藤研究室

高壓に對する誘電體力率に關する研究

酸化アルミニウム皮膜の性質に關する研究

酸化アルミニウム皮膜の應用に關する研究

電動機特性決定の一方法に關する研究

變化しつゝある高温度が普通絶縁材料の劣化に及ぼす影響

高温度に於ける普通絶縁材料の劣化に對する壓力の影響

研究員 理學博士 木村正路

研究員 理學士 殿村正

研究生 理學士 竹脇又一郎

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

研究員 理學士 木下正雄

電磁的「サイクログラフ」の性質と應用に就て
電壓を受くる誘電體内の特性に關する研究
纖維素誘導體の電氣絶縁性能
高壓電纜の耐流度

XXIII 鈴木(庸)研究室

銀、水銀、タリウム等のハロゲン化合物の水中に於ける散亂に就て
應用光化學に關する研究
セメント類凝結硬化の機作に就て
アルミナ製造法並に粘土處理法の研究
重炭酸マグネシウム過飽和溶液の研究
硅素有機化合物並に硅酸ゾールの研究
芳香屬硫黄化合物に就て

研究員 工學士 赤平武藏
助手 工學士 加賀屋泰藏
研究員 工學士 赤平武雄
助手 工學士 浅利悦藏
研究員 工學士 松平日出男
助手 工學士 淺利悦藏
研究員 工學士 露木新平

研究員 理學士 鈴木庸生
研究員 理學士 鈴木庸生
研究員 工學士 福島信之助
研究員 工學士 堀江忠一
研究員 工學士 前田勳
研究員 工學士 栗田中寛
研究員 工學士 栗田中寛
研究員 工學士 寺田喜代松
研究員 工學士 稻葉見敬
研究員 工學士 西村順一

スルフォン酸に就て
耐光性染料の研究
高壓電氣爐の研究
難溶融物質の研究

XXIV 鈴木(梅)研究室

榮養に關する研究
新清酒の製造
醱酵生産物に就て
醸造物の香氣
フルフラールの利用法
フルフラールの製造
ビタミンA並に脂肪の榮養に關する研究

研究生 工學士 關戸勳
助手 櫻井季雄
研究員 理學博士 山部俊正
研究員 理學博士 山部俊正
研究員 理學博士 武部俊正

研究員 農學博士 鈴木梅太郎
研究員 農學博士 橋本鍋太郎
研究員 農學博士 鈴木梅太郎
研究員 農學博士 加藤正二
研究員 農學博士 東恒人
研究員 農學博士 丸山捨吉
研究員 農學博士 藪田貞治
研究員 農學博士 大下嶽六郎
研究員 農學博士 岡野公次
研究員 農學博士 中宮次郎
研究員 農學博士 川上蔵夫
研究員 農學博士 山本蔵夫

支出ノ部

科目	豫算額	前年度ト比較 増減△印減	備考
事務費	五〇、九八八	一〇、〇〇〇	所長一名、主事一名、書記四名、 雇員備人十五名に對する分
俸給及諸給	二五、二三八		
業務費	一五、七五〇		
雜品消耗品費	一、〇〇〇		
印刷費	五〇〇		
通信運搬費	五〇〇		
旅費	二〇〇		
會費	一、〇〇〇		
接待費	二二〇		
賄費	七、〇二〇	二七〇	職員二百六十名に對し九錢の晝 食三百日分
租稅	一、〇〇〇	二七〇	地租
火災保險料	一、二〇〇		木造建物及什器研究室內機械圖 書什器六十萬圓に對する分

科目	豫算額	前年度ト比較 増減△印減	備考
修繕費	二、五〇〇		
雜費	一〇、〇〇〇		三棟五戸
所宅建設費	一〇、〇〇〇		
研究費	四二六、四七二	一一、六四四	研究に従事し又は其介助をなす 職員等に對する分
俸給及諸給	二四六、八六六	八、〇九〇	
事業費	一七九、六〇六	三、五五四	研究用諸材料及藥品其他研究室 用消耗品等
雜品消耗品費	七二、〇八六	六、九五四	動力、電燈、電話費
電氣費	一三、五〇〇	二、〇〇〇	蒸汽及煙房用石炭費
燃料費	九、二〇〇		
瓦斯水道費	六、五〇〇	一、〇〇〇	研究報告書刊行費
印刷費	二〇、〇〇〇		内外國通信費等
通信運搬費	一、五〇〇		研究員會及報告會費
會費	二、〇〇〇		内外國特許料及出願費
特許費	一二、〇〇〇	二、〇〇〇	研究員一名一ヶ年滞在費二名渡 航及歸朝費
留學費	七、三二〇	六〇〇	
器具機械費	二五、〇〇〇		
圖書製本費	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	

計	雜費	五〇〇	
	豫備費	二〇、〇〇〇	
	計	四九七、四六〇	
		一〇、〇〇〇	
		三一、六四四	

八 第十回(大正十五年昭和元年)決算報告

一 拂込未済資金	一七五、四七〇・〇〇	一 設 備	一、五五〇、二一八・六九
一 特別當座預金	三二、九八〇・二〇	一 構 內 設 備	五四、九九二・三一
一 郵便振替貯金	一、一〇六・〇七	一 貯 藏 品	五八、六四五・一九
一 現 金	七、二二四・六八	一 假 拂 金	三七、一二九・三一
一 有 價 證 券	一、八八〇、四〇〇・〇〇	一 事業費支辨設備	四三九、三八三・八五
額面	一、九五六、〇〇〇・〇〇	過 年 度	三三九、三八三・八五
一 地 所	四三一、三一〇・八八	本 年 度	一〇〇、〇〇〇・〇〇
一 建 物	一、四三六、七九四・一二	一 資金流用設備	四〇〇、四一二・二五
		過 年 度	二五八、三二四・六四

本 年 度	一四二、〇八七・六一
小 計	六、五〇六、〇六七・五五
一 未收入賣掛金	一八、二三七・七〇
一 製 作 品 及 材 料	七九、五一〇・五〇
合 計	六、六〇三、八一五・七五

一 別 口 引 當 金	四、〇一〇・〇〇
合 計	六、六〇三、八一五・七五

事業勘定書 自大正十五年四月一日至昭和二年三月三十一日

一 資 金	五、八七八、八〇〇・〇〇
一 固定資産減價引當	五六六、八六二・五四
過 年 度	一二七、四七八・六九
本 年 度	四三九、三八三・八五
(本年度分ハ事業費支辨設備引當ヲ振替)	
一 資金流用設備減價引當	一五四、一四三・二一
過 年 度	五、二〇一・〇三
本 年 度	一四八、九四二・一八

一 利 息	一七五、三六四・七七
一 補 助 金	二五〇、〇〇〇・〇〇
一 研 究 費 收 入	一〇、二五〇・〇〇
一 有價證券賣買差金	五、六五一・三七
一 貸 地 貸 家 料	四、八九八・六七
一 雜 收 入	六八七・二四
一 作 業 費 收 入	七三三、八〇八・一四
合 計	一、一八〇、六六〇・一九

支出

一事務費	三四、七三五・〇三	一事務費建設費	二四、〇八六・八一
俸給及諸給	一九、六七四・五〇	建物	一、〇九六・一五
業務費	一五、〇六〇・五三	設備	二二、五四〇・六六
一研究費	四七〇、九八一・九五	構内設備	四五〇・〇〇
俸給及諸給	二八一、九〇八・五一	小計	一、〇四五、六五五・二八
事業費	一八九、〇七三・四四	資金流用設備減價	一三五、〇〇四・九一
一作業費	五一五、八五一・四九	償却費及同支拂利息	一一五、五五四・八八
俸給及諸給	二〇三、三六八・九二	償却費	一九、四五〇・〇三
事業費	三一二、四八二・三七	利息	一、一八〇、六六〇・一九
合計		合計	

参考の爲左に創立以來よりの事業費の收支決算額を略記する。

年 度	收 入	支 出	年 度	收 入	支 出
十 年	五三、三八四・四五	三二、七五・八九	十 一 年	二七二、二三・五三	三一九、四五七・〇
九 年	一三、二五四・〇四	三、二五〇・〇一	十 二 年	九四三、八七五・七一	九〇〇、五七〇・二
八 年	二一〇、六八〇・九五	一〇九、九〇九・七三	十 三 年	八八四、九四五・三三	八八五、六九六・六八
七 年	二七、八三八・〇五	一六三、四五三・三六	十 四 年	九六七、二二・四三	九六六、五三八・〇七
六 年	三〇五、九三〇・五三	二四七、九四〇・五〇	十 五 年	一、一八〇、六六〇・一九	一、〇四五、六五五・二八

九 特 許 權

當所の所有してゐる内外國の特許權は昭和二年九月迄に、内國一五九件、外國三五件、實用新案特許五件、登録商標一四件であつて、其内已に實施せられて居るものも可成りあるが、多くは未だ實施されずにある。適當の條件で是等の特許が社會に大いに利用せられんことを望むものである。出願中のもの、又は公告中のものを除き已に登録せられた特許は左の通りで、○を附したものは已に相當條件の下に實施されつゝあるものである。(昭和二年九月現在)

第五〇二六號	電流に依る金屬酸化物の融和筒管製造法	一、二、五、八	理學士 山口與正
第五〇三三號	鐵鑛を硫酸溶液にて處理して硫酸第一鐵溶液を製造する方法	一、二、六、一三	工學士 中上川勇五郎
第五〇三四號	空氣乾燥用吸着劑製造法	一、二、六、一四	工學士 山本榮男
第五〇三四號	青化法による遊離窒素の固定法	一、二、六、一三	理學士 寺田喜代松
第五〇四二號	擴散により亞鉛、アルミニウム、錫等の比較的熔融點の小なる金屬を以て他金屬を被覆する改良方法を以て他金屬を被覆する改良方法	一、二、六、一三	工學博士 眞島正市
第五〇五五號	蟻酸曹達より、フォルムアルデヒドアセトン及メチルアルコールの製造法	一、二、六、一三	工學士 田中寛
第五〇五八號	松柏科植物の樹脂若しくは同植物の樹脂液よりテレピン油を取り去りたる残渣等より一種の油を製造する方法	一、二、六、一三	理學博士 飯盛里安 鈴木鑛二
第六〇〇五號	油脂より脂溶性グイタミンAを抽出する方法	一、三、一、一五	農學士 高橋克己
第六〇〇六號	亞硫酸アムモニアより硫酸アムモニアの製造法	一、三、一、二二	理學士 石川總雄

第六〇〇四號	砂鐵、黃土、沼鐵鑛等の砂狀若しくは破砕し易き鐵鑛より電解鐵を製造する方法	一、三、一、二二	工學博士 大河内正敏 工學士 花岡元吉
第六〇〇五號	電氣絶縁塗料	一、三、一、二二	農學博士 鯨井恒太郎 農學士 植木榮
第六〇〇六號	研磨料アルミナ製造法	一、三、一、二二	理學士 山口與正
第六〇一八號	溶液濃縮法	一、三、三、一五	工學士 赤平武雄
第六〇三九號	吸著に依る空氣乾燥法	一、三、四、一六	理學博士 池田菊苗 理學士 磯部鶴治
第六〇四三號	石炭酸及フォルマリンより無臭透明なる琥珀狀縮合物を製造する方法	一、三、四、一八	工學博士 喜多源逸 外二名
第六〇四四號	還元性氣體により酸化錫より錫を製造する方法	同	工學士 前田一名
第六〇四四號	電磁石の磁力を測定する器械	一、三、四、二二	理學博士 長岡半太郎 理學士 内山清
第六〇四五號	アニリンの接觸的製造法	同	理學士 久保田勉之助 理學士 吉河清

第六四七號	透明なる溶融石英製造法	同		理學士 山口俊與正
第六〇六號	強磁性體、特に鐵の電解法	同		工學博士 眞島正市
第六〇五號	コールドビッチミトルオールに依る新アスファルト	同		理學士 磯部甫
第六〇六號	酸化水銀製造裝置	一三、八、三〇		農學士 渡邊俊雄
第六三九號	砂鐵、黃土、沼鐵鑛等の砂狀若は破碎し易き鐵鑛より電解鐵を製造する方法(追加)	一三、一〇、七		工學博士 大河内正敏
第六三九號	吸着に依る天然瓦斯及石炭瓦斯中に含まれたる揮發油分を採集する方法(追加)	一三、一〇、七		工學士 花岡元吉
第六四〇七號	電磁氣應用化學天秤	同		理學博士 磯部甫
第六七五號	醋酸纖維素製造法	一三、一一、一九		理學博士 岡澤鶴治
第六七六號	植物質資料より脂溶性ビタミンを抽出する方法	同		理學博士 池田菊苗
第六七七號	アセチレンよりアセトアルデヒド製造法の改良	同		農學士 喜多源逸

第六七六號	木蠟より有機溶劑及液體燃料の製造法	一三、一一、一九		理學博士 飯盛里安
第六八〇六號	紫外線を吸收する物體ウルトラヂン及其鹽類の製造法	一三、一一、二〇		理學士 鈴木庸生
第六八七號	コロイド狀物質の濕分吸着力を増進する方法	同		理學士 櫻井季雄
第六九〇號	アルミニウム並にアルミニウム合金の防銹法	同		理學博士 磯部甫
第六九二號	無水フタル酸の製造法	同		農學士 植木恒太郎
第六九三號	氣壓測微計	二三、一二、三		理學博士 長岡半太郎
第六九七號	濾水劑の製造法	一四、二、五		理學博士 綾部直
第六三六號	アルミニウム電氣絶緣皮膜の製法	同		工學博士 岡澤鶴治
第六三七九號	磷酸鐵鑛土鑛より人工ボーキサイド製造法	同		農學士 植木恒太郎
第六三九號	清酒代用飲料製造方法	同		理學博士 池田菊苗
第六三九號	油脂より脂溶性ビタミンを抽出する方法	一四、三、一七		農學博士 小野田虎藏
第六三九號	酸化によるアルミニウム若はアルミニウム合金電氣絶緣性皮膜の製法	同		農學博士 鈴木梅太郎
第六三九號	ニウム合金電氣絶緣性皮膜の製法	同		農學博士 高橋克己
第六三九號	ニウム合金電氣絶緣性皮膜の製法	同		農學博士 鯨井恒太郎

第六三六號	沈澱撰鑛法	一四、三、二〇	理學士 石川 鐵彌
○第六三〇八二號	磷酸礬土鑛處理法	同 三、三一	小野田虎藏
第六二六九號	無氣泡透明琥珀樣石炭酸フォルマリン縮合物製法	一四、四、一〇	工學博士 喜多 源逸
第六四二五號	鑄物の氣泡を除去する鑄造方法及裝置	同 五、二六	工學博士 富久 力松
第六四三〇號	漆類似塗料製法	同 六、一八	理學博士 本多光太郎
第六四四〇號	プリズム干渉計	一四、六、一八	理學博士 海老原敬吉
○第六四三六號	脂溶性グイタミンを含有する油脂より該グイタミンを有機溶劑に移行せしむる方法	一四、六、二二	理學博士 眞島 淳造
第六四四〇號	酸性白土と稀酸水溶液との混合物より成れる膠狀物に依る古印刷紙漂白方法	一四、六、二二	農學博士 高橋 克己
第六四四四號	天然産コロイド狀物質を混用したる石鹼	同 六、二二	理學士 磯部 甫
第六四四九號	常磁性を有する溶液を用ひて磁場の強さを測定する方法	同 六、二二	理學博士 長岡半太郎 理學士 淺田常三郎

第六七四號	水銀蒸氣弧光燈	一四、七、一四	理學士 福田 光治
第六四六三號	電解鐵の製造方法	一四、七、二五	工學士 花岡 元吉
○第六四八九號	金屬アルミニウム若はアルミニウム合金の電氣絶緣皮膜の製造法	一四、七、二五	工學博士 鶴飼三五郎
第六五〇九號	スーダンIII代用顯微鏡用色素製造法	一四、七、二九	農學博士 植井恒太郎
第六五二〇號	無水フタル酸の製造法	一四、七、二九	理學士 眞島 哲利
第六五〇二號	異種金屬の粉粒混合物の焙焼に依る器物製造方法	一四、七、二九	理學士 重松 哲二
第六五〇三號	アズールIの製造法	一四、七、二九	理學博士 淺原 源七
○第六五〇四號	デリス屬植物根の有効成分を含有せる驅虫劑製造方法	一四、七、二九	理學博士 眞島 哲利
○第六五〇四號	イルミノールG類の製法	一四、九、一一	農學士 武居 三吉
○第六五〇六號	イルミノールR類の製法	一四、九、一一	理學博士 眞島 利行
○第六五〇四號	臭化銀、鹽化銀或は沃化銀を含む寫真用乳劑の製造法	一四、九、二四	理學士 尾形輝太郎
第六六八三號	煙草又は其廢物よりニコチン殺虫劑を製造する方法	一四、十、六	同 農學博士 山本 俊亮

第六五〇三號	内 燃 機 關	一四、一一、九	内山政治
第六六一號	合金粉粒の加壓及焙焼による器物製造方法	一四、一二、一一	理學博士 淺原源七
第六九八號	化合物中の水素を脱出せしむる性質を有するニッケル接觸劑の製法(甲號)	一四、一二、二二	工學博士 喜多源逸 外三氏
第六九〇號	同 上 (乙號)	同	同
第六九二號	○ 酵母の自家消化液を原料とするソースの製造方法	一四、一二、二二	農學博士 山本亮 農學士 植村泰二
第六九八號	○ 酵母の自家消化液を原料とする食酢の製造方法	同	同
第六七三號	磁酸化鐵礦より亞硫酸瓦斯を製造する方法	一五、一、二二	工學博士 大河内正敏 工學士 花岡元吉
第六七五號	○ アニソンの接觸的製造法	一五、一、二五	理學博士 久保田勉之助 理學士 吉河清
第六七八號	○ アスファルト類及類似物質の性質を改良する方法	一五、二、四	理學博士 池田菊甫 理學士 磯部甫
第六七五三號	煙草又は其廢物よりニコチン殺虫劑を製造する方法	一五、二、二九	農學博士 山本亮
第六七四號	加壓及焙焼による合金器物製造方法(追加)	一五、三、二二	理學博士 淺原源七

第六七五九號	亞硫酸瓦斯除去法	一五、三、一三	理學士 鈴木庸生 理學士 稻葉見敬
第六七五八號	金屬粉粒の加壓焙焼による器物製造方法	一五、四、二	理學博士 淺原源七
○ 第六七六一號	インドールβエチルアミンの製法	同	理學博士 眞島利行
第六七九三號	鐵の硅化法	同	理學士 鈴木庸生 今富祥一郎 尾間一彦
第六一五三號	纖維素のエステル化する法	一五、四、二八	工學博士 喜多源逸 外三氏
第六一五九號	重力測定用振子裝置	同	理學博士 長岡半太郎 綾部青直 佐藤部
○ 第六二四九號	フルフラールの電解により同時にマレイン酸及琥珀酸を製造する方法	一五、五、六	農學博士 藪田貞治郎
第六三二號	一酸化炭素より活性炭素を製造する方法	同	理學博士 淺原源七 渡邊得之助
第六四七號	礬土鹽類溶液より鐵分を除去する方法	一五、五、一九	岡澤鶴治

第六五五號	オゾンによる樟腦の製造法	一五、六、一二	理學士	池田安鐵
第六六六號	永久帶電體即ち「エレクトレット」を使用せる纖維電位計	一五、六、二四	理學博士	藤田
第六六六號	送電を中止せずして碍子の良否を檢定する方法	同	理學士	江口元太郎
第六七〇號	高速度指壓計	同	工學博士	山口大
第六七〇號	磷酸鐵礬土鑛處理法	同	綾部直	拔山
第六九二號	「ベンゾール」又は「エーテル」等に可溶性なる高級脂肪酸纖維素「エステル」の製造法	一五、七、一五	工學博士	喜多源逸
第六九二號	「アルミニウム」又は其合金の電氣絶縁皮膜製造法	一五、八、一七	同	馬詰哲郎
第六九二號	送電を中止せずして碍子又は其他の絶縁物の良否を判別する方法	一五、八、一九	工學博士	中島一郎
第六九二號	濕分吸着劑製造法 (追加)	一五、八、三〇	理學士	櫻田象二
第六九三號	芳香屬ニトロ化合物の接觸的還元法	一五、九、一四	理學博士	瀬藤榮
第六九四號	無水「フタル」酸の製造法	一五、九、二〇	理學士	植木健
第六九四號	耐水性磷光體の製造法	同	工學士	西
第六九六號	電磁的「サイクログラフ」	一五、一〇、一六	工學士	西
第六九七號	電磁ヒステリシス損失の少なる純鐵板を製造する方法	同	工學博士	赤平武雄
第六九七號	硅酸「アルカリ」と酸性無水無機物とより耐水性硬化物を製造する方法	同	理學博士	大河内正敏
第六九九號	「アセチレン」より「アセトアルデヒド」の製造に用ふる活性を失ひたる接觸劑を回復利用する方法	一五、一〇、二九	農學士	花岡元吉
第六九九號	炭酸曹達製造法	一五、一〇、二九	工學士	池田菊苗
第七〇三號	「ナフタリン」の接觸的還元法に依り「テトラリン」及「デカリン」を製造する方法	一五、一一、一五	理學士	小野田虎藏
第七〇三號	弗化水素連續發生捕集裝置	同	理學士	寺田喜代松
第七〇三號	同	同	理學士	鈴木庸生
第七〇三號	同	同	農學士	渡邊貞臣
第七〇三號	同	同	工學士	阪田
第七〇三號	同	同	理學士	早野時夫
第七〇三號	同	同	理學士	草間征夫
第七〇三號	同	同	理學士	宇野
第七〇三號	同	同	理學士	小野田虎藏
第七〇三號	同	同	理學士	早川貢

第六九四號	耐水性磷光體の製造法	同	工學士	鈴木庸生
第六九六號	電磁的「サイクログラフ」	一五、一〇、一六	工學士	赤平武雄
第六九七號	電磁ヒステリシス損失の少なる純鐵板を製造する方法	同	工學博士	大河内正敏
第六九七號	硅酸「アルカリ」と酸性無水無機物とより耐水性硬化物を製造する方法	同	理學博士	花岡元吉
第六九九號	「アセチレン」より「アセトアルデヒド」の製造に用ふる活性を失ひたる接觸劑を回復利用する方法	一五、一〇、二九	農學士	渡邊貞臣
第六九九號	炭酸曹達製造法	一五、一〇、二九	工學士	阪田
第七〇三號	「ナフタリン」の接觸的還元法に依り「テトラリン」及「デカリン」を製造する方法	一五、一一、一五	理學士	早野時夫
第七〇三號	弗化水素連續發生捕集裝置	同	理學士	草間征夫
第七〇三號	同	同	理學士	宇野
第七〇三號	同	同	理學士	小野田虎藏
第七〇三號	同	同	理學士	早川貢

第七〇四號	「シリンドー」内壁に對し均なる壓力を及す「ビストリンゲ」の製作法	一五、一一、一五	工學博士 大 河 内 正 敏
第七〇四號	同	同	工學博士 海 老 原 敬 吉
第七〇五號	燐酸鐵礬土礬の處理法	同	工學博士 小 野 田 虎 藏
第七〇三三號	酵母よりグイタミンBを含有する調味料を製造する方法	一五、一二、一六	醫學博士 山 本 三 浦 政 太 郎
第七〇三三號	「ナフタリン」の接觸的還元法に依り「テトラリン」及「デカリン」を製造する方法	一五、一二、一	理學士 草 野 征 夫
第七〇四三號	寫真乾板の感光度を増大若は低減する方法	一五、一二、二三	理學博士 飯 盛 里 安
第七〇四三號	干涉的分光鏡	二、二、一五	理學博士 石 動 弘
第七二八五號	輕粗なる炭酸「マグネシウム」を製造する方法	二、二、二五	理學士 長 岡 半 太 郎
第七二八六號	清酒代用飲料製造法	同	農學博士 三 島 忠 雄
第七三〇號	天然瓦斯又は石炭瓦斯等より「メタン」瓦斯を分取し「カーボンブラック」を製造する方法	二、三、一〇	理學士 鈴 木 梅 太 郎
第七三三號	「アルカリ」纖維素製造廢液の回收法	同	工學博士 寺 田 喜 代 松

第七四三號	軟性又は比較的軟性なる金屬又は合金の粉末を製造する方法	一五、三、二二	理學士 鈴 木 庸 生
第七四三號	「アセトアルデヒド」を採集する方法	一五、四、一三	農學士 今 富 祥 一 彦
第七六三號	綠色感光色素「ベンジル、フリユオラミン」の製造法	同	理學士 渡 邊 貞 俊 臣
第七七五號	高壓電氣を利用して「カーボンブラック」を製造する方法	二、四、二五	理學士 坂 田 貞 臣
第七八五號	「アセチレン」熱重合法の改良	二、五、一〇	理學士 鈴 木 庸 生
第七九九號	金屬に硅素を含有せしむる方法	二、五、一九	同 喜 多 源 逸
第七九七號	水銀電燈	同	同 馬 詰 盛 一 郎
第七〇九三號	電解により騰寫版鍍を製造する方法	二、五、三一	工學博士 喜 多 源 逸


特許番号	名	稱	特許年月日	發明者
第七三五號	金の沈澱法		二、六、二〇	安田又一
第七四九號	均一平滑なる沈澱を得る電解陰極の處理法		二、六、二九	大河内正敏
第七六〇八號	内燃機用發火栓		二、七、一四	山口俊正
第七八八號	蓄電池鉛粉製造法		二、八、三	鈴木富一
第七三八六號	輕粗なる「マグネシウム」を製造する改良方法(追加)		二、九、七	鈴木富一
第七三八七號	軟性又は比較的軟性なる金屬又は合金の粉末を製造する方法(追加)		同	鈴木富一
第七三九九號	研磨料「アルミナ」製造方法(追加)		同	山口俊正
第七三七三號	天然瓦斯又は石炭瓦斯等より「カ1ボンブラック」を製造すると同時に其餘熱を利用する装置		二、九、一二	長岡半太郎
第七三五號	一の原子を他の原子に變更する方法		同	長岡半太郎
第七五四三號	金屬磨料の製造方法		二、九、一六	大河内正敏

特許番号	名	稱	特許年月日	發明者
佛國 第五三九〇號	瓦斯採集法		二、三、三、一〇	池田菊甫
メキシコ 第三六九〇號	同		二、三、五、二五	岡澤鶴治
英國 第二〇七五號	同		二、三、八、三〇	同
メキシコ 第二五七號	同		二、六、一、一五	工學博士 大河内正敏
佛國 第六〇二號	同		二、七、五、二	同
佛國 第五三九一號	空氣乾燥法		二、三、二、一〇	理學博士 池田菊甫
英國 第二〇六九〇號	同		二、三、一〇、二九	理學博士 岡澤鶴治
加太 第二四三〇號	同		二、四、一、一一	同
米國 第一四二七號	同		二、五、六、九	同

米國 第一六〇六〇號	空氣乾燥法	二七、五、三一	理學博士 池田菊苗
濠洲 第一三〇二八號	ビタミンA抽出法	二三、六、二一	農學士 岡澤鶴治
印度 第九五四號	同	二三、八、三	同
佛國 第五六九五號	同	二三、一一、二六	同
瑞西 第一〇六三九號	同	二四、五、二三	同
加奈太 第二四二九〇號	同	二四、九、一九	同
那威 第四一四七號	同	二五、六、一五	同
伊太利 第二〇五八六號	同	二五、六、二八	同
瑞典 第六一四七四號	同	二六、七、八	農學博士 高橋克己
英國 第三五三〇號	電磁天秤	二五、五、二五	理學博士 長岡半太郎
佛國 第五九四一六號	同	二五、一、二五	同

佛國 第五五四〇四號	ウルトラゼン製法	二四、一二、九	理學士 鈴木庸生
英國 第二四七二號	同	二五、一一、一八	同
佛國 第五九〇八〇號	アルミニウム防銹法	二五、三、二六	工學博士 鯨井恒太郎
英國 第三五三六號	同	二五、一〇、八	農學士 植木榮
米國 第一五二四三三號	電解鐵	二六、四、二七	工學博士 大河内正敏
英國 第三二四八六號	水銀燈	二六、五、六	工學博士 花岡元吉
佛國 第六〇一四一〇號	同	二六、一一、三〇	理學博士 長岡半太郎
英國 第三九四八三號	同	二六、五、六	農學士 武居三吉
海峽殖民地 第六七一號	同	二六、五、二〇	同
同	同	二七、三、一六	同
佛國 第六二七九號	ピストンリングの製法	二六、一一、三〇	工學博士 大河内正敏

佛 國	佛 國	英 國	メキシコ	實用新案	登 録 番 號	名 稱	年 月 月	發 明 者
佛 國 第 六 二 〇 七 號	佛 國 第 六 二 〇 三 號	英 國 第 五 三 八 七 號	メキシコ 第 三 七 四 七 號	第 八 一 〇 九 號	第 九 一 一 〇 號	家庭用乾燥器 A	一三、四、二一	池田菊苗 磯部鶴治
同	同	同	同	第 九 一 一 〇 號	第 九 〇 七 五 八 號	家庭用乾燥器 B	同	同
同	同	同	同	第 九 〇 七 五 八 號	第 九 〇 七 五 八 號	眼鏡	一四、九、七	鈴木庸生 櫻井季雄
同	同	同	同	第 九 〇 七 五 八 號	第 九 〇 七 五 八 號	組合透鏡	一四、一二、二二	同
同	同	同	同	第 一 〇 〇 八 〇 號	第 一 〇 〇 八 〇 號	注射液用保温瓶	一五、九、二三	小野忠五郎

商 標 登 録 番 號	名 稱	類 別	年 月 日
第 一 六 四 九 五 號	Biosterin	第一類	一四、一、一四
第 一 六 四 九 四 號	Biosterol	同	同
第 一 六 六 八 三 號	Leptolite	第十三類	一四、三、五
第 一 六 六 八 二 號	同	第二類	同
第 一 七 七 六 號	「理研」	第一類	一四、七、一五
第 一 七 三 八 四 號	Ultrazin	第一類	一四、八、一一
第 一 七 四 〇 九 號	Ceramocoll	同	一四、一二、二三
第 一 五 三 五 七 號		第二十類	一五、一〇、六
第 一 八 六 九 六 號	同	第六十九類	一五、一二、一
第 一 八 六 三 三 號	アドソール	第十四類	二、三、二二

附
錄

理化學研究所案内

第一八六二四號	A. Isolo	同	二、三、二二
第一八六七七號	理研	第十八類	二、二、二七
第一九〇六九號	同	第十七類	二、五、九
第一九二三八號	Delica	第四十五類	二、六、一四

八六

彙報 出版物目次

第一輯 第一號

研究所彙報の發刊……………大河内正敏
 クロールピクリン(コクゾール)の殺蟲的應用……………山本亮
 無聲放電による化學反應……………宮本進
 鐵鋼中の非金属性介在物の識別法に就て……………淺原源七
 食糧問題に關する講話……………鈴木梅太郎
 理化學研究所實驗室の設備……………竹中二郎
 研究事項……………研究成績發表委員
 設立の經過並に現況……………水谷清

第一輯 第二號

鑄物の集ま金屬中に含有せらるゝ瓦斯の影響……………大河内正敏
 恒溫恒濕器の自動調整法……………赤平武雄
 アルアルコールの接觸的分解……………久保田勉之助
 水素瓦斯の吸藏に起因せる鐵鋼の變質に就いて……………眞島正市
 軌近の研究に基く鐵炭素系の狀態圖に就いて……………本多光太郎
 高溫度に於ける合金の硬さ……………大河内正敏
 松井晉作

第一輯 第三號

合金の熱膨脹と降伏點……………大河内正敏
 インナツムの檢出及分離に就いて……………阿和齋三實

ブリネル硬度計に就いて.....

熔融金屬が凝固する時の表面の形.....

除虫菊の有効成分の研究(第四報).....

除虫菊の乾溜によりて生ずる殺虫的成分に就いて.....

酸化第一錫の分解温度.....

粘土類に関する研究(第三報)
酸性白土の新らしい應用一二に就いて.....

亞硫酸鹽の酸化速度に就いて.....

鹽素酸加里の熱分解に就いて.....

硫化銅鐵の焙燒に関する研究(第一報).....

第三輯 第三號

金屬線の粘性延長(Plastic elongation)に就いて.....

チタン鋼の機械的性質に就いて.....

白金ロザウムよりインサウムを分離する新方法並に白金、ロザウムの定性的分離に就いて.....

高温度の恒温自動調節に就いて(一).....

硫酸鐵電解の際の電壓に就いて(第一報).....

水溶液に於ける亞硝酸の酸化.....

アドソールに関する研究(其三).....

一般品物の乾燥につきて.....

牛乳及乳製品のグキタミン含量に就いて.....

鑄物の集の生成に就いて.....

第三輯 第四號

本多光太郎
高橋金之助
大越亮
山本瑞
鷺見本
山前根田
岡澤鶴
石庭川
櫻庭繁次
寺田喜代
田中寛

庄司彦六
和田丸莞
和田猪三
中和猪三
淺原清源
今宮富祥
稻富葉見
磯部
鈴木梅芳
橋本錫太
海老原敬吉

第三輯 第四號

亞硫酸鹽の酸化に對する數種の觸媒の影響.....

除虫菊の有効成分に関する研究(第五報)
有効成分の主體に就いて.....

感光性シアニン色素類の光學的研究.....

土壤のコロイドに就いて.....

粘土類に関する研究(第四報)
新濾水材料に就いて.....

アドソールに関する研究(其四)
乾燥空氣による室内の冷却
界面張力に及ぼす氣體の影響に就いて.....

第三輯 第五號

鹽素酸加里の熱分解に就いて(第二報).....

鑄型に於ける湯路の研究.....

ニトリルミチアミドとの縮合に就いて(第四報).....

電流に依り鐵鐵の團塊を製造する方法.....

脂肪及びボイドの榮養價に就いて.....

マラカイトグリーンの可逆性光化學變化に就いて.....

第三輯 第六號

酵母中の含硫黃化合物に就いて.....

電極の彎曲に就いて.....

組オリザニンの分解物たるβ酸の性質及構造に就いて(第一報).....

過酸化窒素と酸素との反應に就いて.....

石川總亮
山見本
鷺形輝季
櫻井猪三
和田猪三
加藤藤七
和藤七
海老原宗太郎
磯部文一郎

寺田喜代松
大河内正
大川清
石川清
山部清
武村雅
大橋克
高橋克
有賀輝

鈴木梅太郎
大森高次
森島正
眞島正
佐橋佳一
稻葉見敬

第三輯 第六號

アリス根の有効成分の研究(第二報).....
溶解度測定装置の一新型.....
本邦産放射性マンガン土の一新種に就きて.....
ピオステリン(所謂ゲイタミンA)の理化學的性質並に其生理的意義に就きて(第一報).....

第四輯 第一號

硬化油研究(第二報)
ニッケル接觸劑に對する酸性、アルカリ性及二三毒性物質の影響.....

硬化油研究(第三報)
水素添加の經過について.....

硬化油研究(第四報)
銅を含むニッケル接觸劑の脱水素作用.....

アスファルトにつきて.....

ポアソン比直接測定の一方法.....

マンニットと硼酸との水溶液に就いて.....

銑鐵の含める硫黄の定量.....

X線分析より見たる電解真鍮の組織.....

高速内燃機關之壓電指壓計.....

高電壓電氣爐.....

感光色素イルミノールR類の製法に就て.....

感光色素イルミノールR類の一合成法に就て.....

銑鐵の硫黄含量を定する方法に就て.....

水分吸着の本性に關する研究.....

養蠶につきて.....

アドソールに關する研究(其五)
牛乳及乳製品中のツキタミンC含量に就て.....

竹桿に附着する蠟様物質に就て.....

酸性白土の比重と比熱につきて.....

吸着に關する研究の二.....

酸性白土粒子の空氣抵抗につきて.....

吸着に關する研究の三.....

事務報告.....

第四輯 第三號
數種の物質に依る電波の吸收に就て(第一報).....

アセトンの蒸氣壓に對する鹽類の影響に就て.....

溶相の容積と諸性質との關係(第一報).....

八ツ目鏡の脂肪及びツキタミンAに就て.....

炭素鋼に於けるA₁變態と麻亞田組織の生成を論ず.....

アルカリ金屬の炭酸鹽に關する研究(第一報).....

武居三 前田根 山盛 飯橋克己 高宮次郎 川上寅次郎 北里實藏

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源 喜多哲源

樟腦屬化合物體の研究(第二報).....池田鐵作
 樟腦の一新生法に就て.....久保田勉之助
 有機化學に於ける無機觸媒の接觸作用研究.....和田猪三郎
 土壤のコロイドに就て(第二報).....加藤輝太郎
 數種の感光色素に就きて.....尾形輝太郎
 粘土に關する研究(第五報).....岡澤鶴治
 壓延せる銀薄片のX線的研究.....吉田光肇
 葉外部に於ける感光促進劑としての油類.....福田城治
 事務報告.....久内山多美男

第四輯 第五號

樟腦屬化合物體の研究(第三報).....池田鐵作
 鹽酸ヒネンよりカムフェンの生成に就いて.....磯野盛里
 樹脂輕油の主成分(第一報).....北島三省
 海軍技術研究所發行の「銑藏及び鋼中の硫黄定量法改良實驗」に就いて.....小島正造
 辛味物質と其化學的構造との關係.....平塚喜造
 熔融せる錫中に於ける銅の彌散に就て.....石川魏雄
 酸素による硫酸第一鐵の酸化に就て.....

第四輯 第六號

有機酸アミドに對する強鹽酸及アムモニアの作用.....小林正造
 保護眼鏡の研究.....櫻井季雄
 無機鹽による懸濁液の沈澱に關する實驗.....石川鐵作
 樟腦屬化合物體の研究(第四報).....池田鐵作
 過マンガン酸加里に依るイソ龍腦の酸化に就て.....

樟腦屬化合物體の研究(第五報).....池田鐵作
 高温に於ける安息香酸の脱水及び脱炭酸反應に就て.....西村順一
 遠心鑄造に關する研究.....大河内正敬
 松脂の結晶成分.....海老原敬吉
 樹脂油に就て.....鈴木鐵二
 機械試驗法の研究.....鈴木鐵二
 本多光太郎

第五輯 第一號

ニチオン酸バリウムに就て.....石川總一
 附、ニチオン酸カルシウムの溶解度.....木口與一
 木口與一
 ダイアスボールに就て.....森岡俊正
 森岡俊正
 液體燃料の自燃點の測定.....大比内正
 大比内正
 トリアセチンと石炭酸との一新反應及びトリアセチンの改良製法に就て.....日比内七
 日比内七
 プレンツカテホン・オルト・カルボン酸の製法及びプレレンツカテホンとグリセリンとの縮合に就て.....橋本眞一
 橋本眞一
 鋼材の伸張及び壓縮試験に伴ふ殘留磁器の變化.....川合眞一
 川合眞一
 佐木谷六郎

第五輯 第二號

硬化油研究(第五報).....馬喜源
 ニツケル接觸劑による脱水素作用.....紀喜一郎
 紀喜一郎
 邦産ルビヤウムの放射能度に就て.....吉飯盛村
 吉飯盛村
 長垂産鱗雲母の組成並に邦産雲母のリチウム含有量に就きて.....吉飯盛村
 吉飯盛村

鐵化合物の酸化作用(第二報)	鈴木文助
Ferriferriyandeに依る有機物の酸化	丸山勉
金屬の柔粘性に對する温度の影響	庄司義雄
金屬の柔粘性	増山彦六
寫真乾板の感光性に關する研究(第一報)	北岡馨
機械的刺戟に對する乾板の感受性に就て	岡澤鶴治
粘土類に關する研究(第六報)	鈴木鑽二
粘土類と指示薬との反應	三浦政太郎
樹脂の自動酸化(其一)	
市販殺菌乳及び日本綠茶の抗壞血病素に就き	
猿に於ける小實驗	

第五輯 第三號

液體の沸點以上の粘土に就て(第一報)	千谷利三
數種の物質に依る電波の吸収に就て(第二報)	水島三一郎
カドミウム赤線(6487Å)の波長の變化に關する研究	福田光治
亞鉛カドミウム及び水銀より新線(Sp-H ₂)の出現に關する研究	福田光治
強電流による金屬(亞鉛・カドミウム)のスペクトル線に就て	内山多美
歐米物理學實驗室視察談	長岡牛太郎
(第五回學術講演會筆記)	尾形輝太郎
指示薬として用ひられる色素の研究(第一報)	尾形輝太郎
濃度の測定並にシアニン色素の變色範圍の測定	尾形輝太郎

第五輯 第四號

鋼の組織と硬度との關係	田丸莞爾
粗カリザニンの分解物たるβ酸(Dioxy-quinoline-carbonic acid)の構造に就て(第二報)	佐橋佳一
粗オリザニンの分解物たるβ酸(Dioxy-quinoline-carbonic acid)の構造に就て(第三報)	佐橋佳一

グイタミン説の發達と榮養學説の變遷	鈴木梅太郎
(第六回學術講演會筆記)	
グイタミンAの結核モルモットに及ぼす作用に關する實驗的研究	糸川角次郎
(第六回學術講演會筆記)	
歐米に於ける理化學器械及工作機械の見學談	綾部直
(第五回學術講演會筆記)	
一二の二鹽基性アミノ酸の電解による分離に就て	野口太直
グイタミンA缺乏食餌飼養豚を以てせる蛔虫感染試驗	平石貞市
白鼠の繁殖に及ぼすコレステリンの影響に就て	鈴木太直
	橋本太直

第五輯 第五號

理研ベイクライトによる偏光彈性試験の研究	辻二郎
金屬組織中の双晶の成因に就て	山口圭二
有機液體の常壓に於ける壓縮率に就て	山口圭二
粘土類に關する研究(第七報)	岡澤鶴治
酸性を示す蠟石類	岡澤鶴治
粘土類に關する研究(第八報)	岡澤鶴治
白土類に依る醋酸メチルの加水分解と其機構に就て	岡澤鶴治
高抵抗測定器メツガーに就きて	宗宮知健
グイタミンAに關する研究	喜多力松

第五輯 第六號

指示薬として用ひられる色素の研究(第二報)	尾形輝太郎
指示薬としての感光色素に就いて	尾形輝太郎
金屬スペクトルのスペクトル効果に就いて	藤岡由夫
活性状態の遷移と觸媒作用の新説	宮本進

光波精測用の簡單な干渉分光計
(Interferential Spectroscope)

アルミニウム皮膜 絶縁性と其應用

理研 Piston King と試験機

第五輯 第七號

各種食品中ビタミン含有量比較表

ニチオン酸の分解に就いて

熱電對電力計

アンチモン型金屬組織中の双晶の成因

第五輯 第八號

磐城石川産綠柱石中のアルカリ金屬に就いて

數種の物質に依る電波の吸收と分散に就いて(第三報)

Debye の双極子説より見たる電波の異狀分散に就いて

酸化アルミニウム皮膜の製法及其の化學的性質に就いて

R タリウムの結晶系に就いて

R タリウムの結晶構造に就いて

粘土類に關する研究(第九報)

粘土類中に含有する稀土類元素族の研究(其一)

第五輯 第九號

電氣絶緣材料の研究(第五編)

纖維質電氣絶緣材料の電氣的損失と温度との關係

還元性氣態と金屬酸化物との平衡(第二報)

酸化第二錫の遊離エネルギー並に水素酸化第二錫系の還元平衡

長岡牛太雄
三島忠雄
宮井恒太
大老内敬吉
海老原

三浦政太郎
石川總雄
宮田圭二
山口

吉村恂
水島三一郎
植井恒太郎
淺原源七
笹原俊雄
笹原

岡澤鶴治
岡田捷三男
鳥山四男
吉田

桂井富之助
寺田喜代松
芝彦一
藤田安二
本多光太郎
高橋金之助
稻葉見一
玉蟲文一
辻村みちよ

大越諄
關富一
鈴木與一
山間祥彦
武部俊平
矢野長生
鈴木孝二
和木孝二
山口

長岡牛太雄
三島忠雄
宮田圭二
山口

長岡牛太雄
三島忠雄
宮田圭二
山口

長岡牛太雄
三島忠雄
宮田圭二
山口

第五輯 第十二號

カドミウム及びビスマス線の構造
鹽化亞鉛とアミン類との添加化合物に就いて(第一報)
鹽化亞鉛と脂肪族アミン類との添加化合物
金屬の硬さと結晶粒境界面

渦動に依る沈積作用に及ぼす窪みの形態の影響
鹽化亞鉛の存在に於て有機酸のフェニルエステルを加熱する際の反應に就いて
軟性金屬の粉末の製造法
ボーキサイトの性質に就いて

第五輯 第十一號

樟腦屬化合物の研究(第六報)
イソボルネオールのおゾン酸化に就いて
再びウリネル硬度測定法に就いて
稀薄亞硫酸瓦斯處理法に就いて
吸着恆溫式の演釋に就いて
ビタミンCの分離及其化學的性質に就いて

第五輯 第十號

滿洲烟臺のアルミニウム鍍のソーダ處理に就いて
炭酸曹達の新製造法
電解質水溶液の壓縮率

焙焼による含水アルミニウム鏡の溶解度の變化に就いて……………桂井富之助
斜方晶系に屬する蟻酸鹽の結晶構造……………仁田勇

第六輯 第五號

硝酸銀による三及四チオン酸鹽の定量に就いて……………室岡川
Hoodの反應に就いて……………富永
彌散による鐵の硅化法……………富木一
Rhodamin 類の色感光性に就いて……………今富祥一
ベンゾール及び窒素に依る鐵の炭化法……………今富祥一
ナフタレンの接觸的還元 に就いて(第一報)……………宇野征夫
樟腦屬化合物の研究(第七報)……………藤田安二
カンフェンの製法に就いて……………鈴木鏡二
チトラールの電解還元 に就いて……………桂井富之助
加壓加熱處理によるゾルの凝縮……………

第六輯 第六號

二チオン酸鹽の熱分解速度に就いて……………石川總
空氣中に於ける針端コロナ放電の研究……………奥多川
活字用合金の凝固に際する體積の變化に就いて……………松山芳治
フルオランの新誘導體シラミン類に就いて……………和島孝雄
アルミニウムの腐蝕に就いて……………飯島俊一
比熱及び潛熱の理論……………土井不曇

第六輯 第七號

焼入液の溫度と焼入鋼の組織の關係に就きて……………本多光太郎
デカロドロキノリン類の研究(第一報)……………藤瀬新一郎
デカロドロ8オキシキノリンの立體性及びその誘導體に就いて……………藤瀬新一郎
デカロドロキノリン類の研究(第二報)……………西村常吉
デカロドロキノリン研究補遺及びバラ、アセトオキシキノリンの還元 に就いて……………西村常吉
結晶水の問題に對する補言……………川上宮行藏
ピオステリン(所謂ウイタミンA)の理化學的性質並びに其生理的意義に就きて(第二報)……………川上宮行藏
麴菌胞子成分に就いて(其二)……………鷲見瑞穂
ウイタミンに就いて……………

第六輯 第八號

指示薬として用ひられる色素の研究(第四報)……………尾形輝太郎
指示薬としての Phenolchinoxalin 色素(其二)……………本多侃士
燐の中の炭素粒……………佐橋佳一
β酸(2,6-Dioxyquinoline-4-carbonic acid)の合成に就いて……………小竹無二雄
蟻酸の有毒成分の化學的研究(第一報)……………小竹無二雄
蟻酸毒に就いて(一)……………イサチン縮合體に就いて(第一報)……………小竹無二雄
2,3-Dioxy-3,4-Dihydrochinolin-4-Carbonsäure……………小竹無二雄
ゲルマニウムの分離法についで……………和田猪三郎
鹽基性鹽の研究(序論)……………和田猪三郎

第六輯 第九號

アノ色素成分檢出法の研究……………上野繁藏
沈澱時の狀況が沈澱の性状に及ぼす影響……………西村常吉
荒井正吉

ネオナム鹽の吸収スペクトル
二オプ・タンクステン群の元素の分離法

第六輯 第十號

珪酸エチル及其分解によるコロイド珪酸に就いて
樟腦屬化合物の研究(第八報)
イソホルニール・アセテートに對するオゾンの作用に就いて

チオ硫酸鹽とシアン化加里との反應速度に就いて

亞硫酸ナトリウムの轉移點に就いて

液體の沸點以上の粘度に就いて(第二報補遺)

蛇皮の數種の光學的性質

針金の電氣的爆發

焰の電氣的性質

比熱及び潛熱の理論(補遺)

重力と遠心力との下に於ける氣體のエネルギー及び分子熱

田代芳郎氏論文「重力と遠心力との下に於ける氣體のエネルギー及び分子熱」及「液體の極限體積及臨界恆溫線」に就いて、附片山正夫氏論文「イソペンタンの狀性式に就いて」に就いて

第六輯 第十一號

龍腦の脱水に就いて
ナフタレンの接觸還元(第二報)

瓦斯機機關用燃料の試験

加藤 猪三郎
和田 鐵吉

池田 鐵吉

藤田 鐵吉

石川 鐵吉

室岡 鐵吉

有井 鐵吉

千谷 鐵吉

長岡 鐵吉

二岡 鐵吉

長岡 鐵吉

町田 鐵吉

本間 鐵吉

岩井 鐵吉

土井 鐵吉

芝田 鐵吉

池田 鐵吉

草野 鐵吉

宇野 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

宮本 鐵吉

第六輯 第十二號

高電壓に於ける誘電體の研究(其一)
誘電損失角の測定方法
生成狀況を異にせる含水硫酸カルシウムの溶解度

中性及酸性亞硫酸ナトリウム、水系の平衡
諸種の肝油とそのビタミンAに就いて

線香花火及び鐵の火花に就いて

燒入鋼に關する二三の研究

ビタミンCの分離及其化學的性質に就いて

亞硫酸の自動酸化に及ぼす銀鹽の光觸媒作用に就いて

粗ビオスのアルカリ處理に依り得たる一結晶成分の構造

酵素作用の可逆性に關する研究(第一報)

酵母酵素に依る isomaltose の合成

カリセライドの分離に就いて

カリセライドの分離に就いて(第二報)

大豆油

鯨油

前記の彙報の定價は左の通り

第一輯 (三冊)

第二輯 (五冊)

第三輯 (六冊)

貳圓五拾錢

參圓五拾錢

四圓

四圓

四圓

四圓

四圓

四圓

四圓

四圓

第四輯 (六冊).....	五
第五輯 (十二冊).....	六
第六輯 (昭和二年度發行十二冊).....	六
第一輯 (合本).....	四圓參拾錢
第二輯 (合本).....	五圓八拾錢
第三輯 (合本).....	六圓五拾錢
第四輯 (合本).....	七
第五輯 (合本).....	八圓五拾錢
歐文報告第一卷 (合本) [一一一三].....	七圓五拾錢
歐文報告第二卷 (合本) [一四一二七].....	九圓五拾錢
第三卷 (合本) [二八一四五].....	七圓五拾錢
第四卷 (合本) [四六六三].....	七圓五拾錢
第五卷 (合本) [六四一八四].....	八圓四拾錢
第六卷 (合本) [八五一〇一].....	六

一部の定價は第一輯第一號七拾五錢、自第一輯第二號至第三輯第六號九拾錢、第四輯各號壹圓、第五輯及第六輯各號七拾錢、御購入御希望の方は本所編纂係宛振替口座東京六二二三番へ拂ひ込まれたし。

歐文報告

No. 1. Hantaro NAGAOKA, Band Spectra of Mercury	20 Sen.
No. 2. Riko MAJIMA and Bannosuke KUBOTA, On the Chemical Constitution of Squalene	30 Sen.
No. 3. Genshichi ASAHARA, On the Nature of Graphite and Amorphous Carbon	30 Sen.
No. 4. Susumu MIYAMOTO, A Study on the Reducing Action of Ferrous Hydroxide	25 Sen.
No. 5. Isaburo WADA and Sunao ATO, On the Detection and Separation of Indium	35 Sen.
No. 6-7. Tsunetaro KIJIRAI, Yozo KOBAYASHI and Yotsuo TORIYAMA, Absorption of Moisture by Fibrous Insulating Materials. Tsunetaro KIJIRAI and Takeo AKAHIRA, Effect of Humidity on the Electrical Resistance of Fibrous Insulating Materials	65 Sen.
No. 8. Hantaro NAGAOKA, The Band Spectra and the Electronic Configuration of Nitrogen and Carbon Monoxide Molecules	20 Sen.
No. 9. Hantaro NAGAOKA and Naoshi AYABE, On a Microbarograph	25 Sen.
No. 10. Isaburo WADA and Tamaki NAKAZONO, On a New Method of Separation of Iridium from Rhodium and Platinum, and the Separation of Platinum and Rhodium	25 Sen.
No. 11. Hantaro NAGAOKA and Yoshikatsu SUGIURA, On the Regularity in the Distribution of Spectral Lines of Iron and Intra-atomic Magnetic Field	35 Sen.
No. 12. Toshio TAKAMINE and Mitsuharu FUKUDA, Spectra of Constricted Arc of Metals	45 Sen.
No. 13. Hantaro NAGAOKA, Yoshikatsu SUGIURA and Tadao MISHIMA, The Fine Structure of Mercury Lines and the Isotopes	2.00 Yen.
No. 14. Hantaro NAGAOKA and Yoshikatsu SUGIURA, Spectroscopic Evidence of Isotopy	1.00 Yen.
No. 15. Isaburo WADA, Sunao ATO and Sechi KATO, The Results of the Analyses of the Soils and the Ashes of Some Sugar Cane	20 Sen.

No. 16. Genshichi ASAHARA, Application of X-Ray Diffraction to the Determination of the Transformation Temperature of Thallium ... 40 Sen.
 No. 17. Hantaro NAGAOKA and Yoshikatsu SUGIURA, Distribution of Electric Field in Metal Arcs and the Stark Effect Observed in Arcs of Silver, Copper, Magnesium, Chromium, Nickel, Cobalt, Iron and Ten Other Metals... 250 Yen.
 No. 18. Mitsuharu FUKUDA, Spectrum of Mercury under Heavy Current Excitation ... 60 Sen.
 No. 19. Bannoake KUBOTA, Yoichi FUJIMURA and Kashiwa AKASHI, On the Formation of a New Dioxydiphenyl from Resorcin ... 25 Sen.
 No. 20. Takeshi NISHII, Further Study on the Accumulation of Charge on Dielectrics and Conductors in Contact with Dielectrics ... 35 Sen.
 No. 21. Tsunetaro KUZIRAI and Takeo AKAHIRA, Effect of Temperature on the Deterioration of Fibrous Insulating Materials ... 45 Sen.
 No. 22-23. Genshichi ASAHARA, On the Transformation Temperature of Thallium.
 Genshichi ASAHARA, The Effect of Allotropic Change on the Grain Growth in Thallium... 50 Sen.
 No. 24-25. Toshiwo SASAHARA, X-Ray Analysis of the Solid Solutions of Potassium Chloride and Potassium Bromide.
 Hazime NAKAMURA, X-Ray Analysis of Electrolytic Brass ... 35 Sen.
 No. 26. Toshio TAKAMINE and Mitsuharu FUKUDA, On the Mercury Line 2270 Å (1S-2p₁) ... 25 Sen.
 No. 27. Seichi ISHIKAWA, Condensation of Nitrides with Thiamides. IV. Thiamides with Anilinochlorides ... 25 Sen.
 Table No.1. Hantaro NAGAOKA and Sadazo SAKURAI, Tables of Theta Functions, Elliptic Integrals K and E, and Associated Coefficients in the Numerical Calculation of Elliptic Functions ... 3.00 Yen.
 No. 28. Yoshikatsu SUGIURA, On the Doublets and Triplets in the Spectra of Different Elements ... 35 Sen.

No. 29. Bannoake KUBOTA et Kiyoshi YOSHIKAWA, Sur la toxicité du thiophène pour le nickel catalyseur et une autre action du cuivre catalyseur ... 20 Sen.
 No. 30. Masamichi KIMURA and Gisaburo NAKAMURA, A Classification of Enhanced Lines of Various Elements ... 45 Sen.
 No. 31. Masamichi KIMURA, Classification of Enhanced Lines of Various Elements. II. ... 20 Sen.
 No. 32. Katsumi TAKAHASHI, Ziro NAKAMURA, Kozo KAWAKAMI and Torao TITASATO, On the Physical and Chemical Properties of Biosterin (a Name given to Fat-Soluble A) and on Its Physiological Significance ... 65 Sen.
 No. 33. Seichi ISHIKAWA, Condensation of Nitriles with Thiamides. V. Action of Sulphur Monochloride upon Thiamides ... 20 Sen.
 No. 34. Sumao NAKAMURA and Yoshio FUJIOKA, On the Behaviour of Some Spark Lines of Carbon in an Electric Field ... 45 Sen.
 No. 35-36. Uzumi DOI, A New Discussion of Bucherer's Experiment.
 Uzumi DOI, On the Interpretation of the Results of Bucherer's Experiment ... 40 Sen.
 No. 37. Mitsuharu FUKUDA, Change of Wave-lengths for Certain Lines of Zinc, Cadmium and Mercury in a Condensed Discharge ... 65 Sen.
 No. 38. Ryo YAMAMOTO, On the Insecticidal Principle of Insect Powder (Chrysanthemum Cine-ratifolium, Boec.) ... 30 Sen.
 No. 39. Bannoake KUBOTA et Kiyoshi YOSHIKAWA, Sur la composition du nickel réduit comme catalyseur ... 20 Sen.
 No. 40. Uzumi DOI, Use of Grating for the Ether-drift Experiment ... 25 Sen.
 No. 41. Isaburo WADA and Sechi KATO, On the Separation of Germanium ... 30 Sen.
 No. 42, 43, 44. Shin-iti KAWAI, Synthesis of the Simplest Homologue of Urushiol.

- Shin-iti KAWAI, On a New Reaction between Triacetone and Phenol and an Improved Method for the Preparation of Triacetone. 30 Sen.
- Shin-iti KAWAI, On the Preparation of Catechol-ortho-carboxylic Acid and the Condensation between Catechol and Glycerol. 30 Sen.
- No. 45. Shoji SETOH and Yotsuo TORIYAMA, The Effect of Atmospheric Humidity on the Dielectric Losses and Power Factors in Fibrous Insulating Materials 50 Sen
- No. 46. Umetsuro SUZUKI, Yoshiniko MATSUYAMA and Nabetaro HASHIMOTO, On the Relative Nutritive Value of Various Proteins Contained in Japanese Food Articles 60 Sen.
- No. 47. Isamu NITTA, The Crystal Structure of Iodoform 20 Sen.
- No. 48. Takeo HORI, On the Absorption Spectra Produced by the Explosion of Various Elements (Hg, Cu, Fe, etc.) 70 Sen.
- No. 49. Satoyasu HIMORI, Radioactive Manganiferous Nodules from Tanokami Oomi Province. . . 20 Sen.
- No. 50, 51. Tutomu MAEDA Kaj Shigeru YAMANE, Ia Konsisto de Magnezioksiklorida Cemento. Tutomu MAEDA, Viskoocoosangō dum la Reakcio inter Magnezioksido kaj Magneziklorida Akvosolvajo, kaj Nova Konsidero rilate al Hardigo de Cementoj 50 Sen.
- No. 52. Torahiko TERADA, Uchihirō NAKAYA and Kiyohiko YUMOTO, Some Experiments on Spark Discharge in Heterogeneous Media-A Hint on the Mechanism of Lightning Discharge . . 70 Sen.
- No. 53. Waro NAKAHARA, Influence of Vitamin A on the Absorption of a Foreign Fat 20 Sen.
- No. 54. Mitsuharu FUKUDA, The Change of the Wave-length of the Cadmium Red-line, (λ 6438.7Å).. . 20 Sen.
- No. 55. Mitsuharu FUKUDA, on the New Lines (IS- $2p, s$), of Zinc, Cadmium and Mercury. . . . 30 Sen.
- No. 56. Mitsuharu FUKUDA, Tamio KUYAMA and Yasushi UCHIDA, The Spectra of Metals under Heavy Current Excitation 40 Sen.
- No. 57-58. Hikoroku SHOJI, On the Plasticity of Metals. Part I. 40 Sen.

- Hikoroku SHOJI and Yoshio MASHIYAMA, On the Plasticity of Metals at High Temperatures. Part II 25 Sen.
- No. 59. Yoshikazu SAHASHI, Ueber die Konstitution der durch Hydrolyse von Roh-Ooyzamin entstehenden β -Säure. (Dioxyreiholin-Carbonsäure) 30 Sen.
- No. 60. Umetsuro SUZUKI and Nabetaro HASHIMOTO, The Influence of Cholesterol upon the Reproductive Potency of White Rats 25 Sen.
- No. 61. Susumu MIYAMOTO, About the Transference of Active States and the Mechanism of Catalytic Action 5 Sen.
- No. 62. Sunao ATO and Isaburo WADA, Analysis of the Alkali Group 35 Sen.
- No. 63. Umetsuro SUZUKI, Chemical Studies of Vitamin-B in Japan 25 Sen.
- No. 64-65. Bensusuke KUBOTA and Taro HAYASHI, On the Catalytic Hydrogenation of the Carbonyl Group in Aromatic Compounds under Pressure in the Presence of Copper. Part I. Bensusuke KUBOTA and Taro HAYASHI, On the Catalytic Hydrogenation of the Carbonyl Group in Aromatic Compounds under Pressure in the Presence of Copper. Part II. . . 20 Sen.
- No. 66. Satoyasu HIMORI and Jun YOSIMURA, Pleochroic Haloes in Biotite. Probable Existence of the Independent Origin of the Actinium Series 20 Sen.
- No. 67. Kanzi TAMARU On the Hardness of Different Structures in Steel 50 Sen.
- No. 68. Yoshio FUJIOKA, Effect of Electric Field on the Spectral Lines of Zinc and Cadmium . . 40 Sen.
- No. 69. Toshio TAKAMINE, Spectroscopic Study on the Discharge in Helium 40 Sen.
- No. 70. Waro NAKAHARA and Yasuko YOKOYAMA, Effect of Combined Fat and Vitamin A Deficiency on Growth and Organ Weight of Albino Rats 25 Sen.
- No. 71-72. Genichi ASAHARA and Toshiwo SASAHARA, The Crystal System of α -Thallium. Toshiwo SASAHARA, The Crystal Structure of α -Thallium 40 Sen.

- No. 73. Tutomu MAEDA, Studio Pra Magnезioksilorida Cemento per X-Radio 20 Sen.
 No. 74. Katsumi TAKAHASHI, On the Nutritive Value of Fats and Lipoids. 50 Sen.
 No. 75-76. Tutomu MAEDA, La Akva Vaporemno de Magnезioksilorida Cemento, Kaj La Stato de Advo En Ghi.
 Tutomu MAEDA, La Malnoligho de Magnезioksilorida Cemento, Kaj la Funkcio de Libera Akvo, Kristalakvo Kaj Adsorbta Akvo. 40 Sen.
 No. 78. Yoshikazu SAHASHI, On the Behavior of 2. 6. Dioxiquinoline Obtained from β -Acid of "Roh-Oryzani" upon the Polynuritis of Pigeon 20 Sen.
 No. 79. San-ichiro MIZUSHIMA, On the Anomalous Dispersion and Absorption of Electric Waves
 No. 80-83. Satoyasu IMORI and Jun YOSHIMURA, The Radioactivity of the Rubidium Extracted from the Lepidolite and Zinnwaldite of Japan.
 Satoyasu IMORI and Jun YOSHIMURA, Lepidolite from Nagatori, Chikuzen Province, and the Lithium Content of Japanese Mica.
 Jun YOSHIMURA, Alkali Metals in Beryl from Ishikawa, Iwaki Province.
 Jiro SASAKI, The Determination of the Helium Content of some Japanese Minerals . . 20 Sen.
 No. 84. Masatosi OKOCHI and Makoto OKOSHI, New Method for Experimental Results . . .1.50 Yen.
 No. 85. Mitsuharu FUKUDA, Reversed Spectra of Metals Produced by Explosion under Increased Pressure 80 Sen.
 No. 86. Munio KOTAKE, Ueber Die Bestandteile Des Laganum. (Echinoidea) I. 20 Sen.
 No. 87. Sin-iti KAWAI, Synthesis of the Homologue of Urushiol, II 20 Sen.
 No. 88. Munio KOTAKE, Ueber Die Kondensationsprodukte Des Isatins. I. Synthese der 2-3-Dioxy-3-4-Dihydro-4-Carbonsaure. 20 Sen.
 No. 89. Masatosi OKOCHI and Keikichi EBIHARA, "P. C. R." Piston Ring and the Packing

- Ring T-ster 30 Sen.
 No. 90. Torahiko TERADA, Kiyohiko YUMOTO and Ukichiro NAKAYA, Conclusion of Mixtures of Hydrogen 50 Sen.
 No. 91. Uzumi DOI, A Theory of the Specific Heat, the Latent Heat of Fusion and Vaporization Being Taken into Consideration 30 Sen.
 No. 92-94. Shozo KOBAYASHI, Syntheses of Some Fatty-Aromatic Amines Containing Phenolic Hydroxyl Groups in Benzene Nucleus
 Shozo KOBAYASHI, Relation between Chemical Constitution and Pungency in Acid Amides
 Shozo KOBAYASHI, Double Compounds of α -Unsaturated Acid Amides with Acid and with Ammonia 35 Sen.
 No. 95-96. Icoiro SAKURADA and Tadashi NAKASHIMA, Untersuchungen über die Celluloseester. .
 Ichiro SAKURADA and Tadashi NAKASHIMA, Ueber die Celluloseester der aromatischen Sulfosäuren 25 Sen.
 No. 97. Isaburo WADA, Se-ji KATO, Analysis of the Niobium and Tungsten Groups 35 Sen.
 No. 98. Tutomu MAEDA, Some Remarks on the Colloid Theory of Cements. 20 Sen.
 No. 99. Keiji YAMAGUCHI, Effect of Grain Boundary upon the Hardness of Aluminium 35 Sen.
 No. 100-101. Yojiro TSUZUKI, The Formation of Oxy-Derivatives of Diphenylene Oxide from Resorcin
 Bensuske KUBOTA and Takeo YAMANE, A Method of determining molecular weight of Organic Substances in Small Quantities by Means of Freezing Point Depression . . . 20 Sen.
 No. 102-104. Tetsusaku IKEDA, On the Catalytic Action of Reduced Copper in Isoborneol
 Tetsusaku IKEDA, A New Process for the Synthesis of Camphor
 Tetsusaku IKEDA, On the Oxidation of Isobornylacetate with Ozone. 30 Sen.
 No. 105. Yoshikazu SAHASHI, The Synthesis of β -Acid (2-6-Dioxyquinoline-4-Carbonic Acid)

obtained from "Roh-Oryzalin" by Hydrolysis	20 Sen
No. 106. Yoshio FUJIOKA, Resonance Radiation in the Excited Neon	25 Sen
No. 107-108. Susumu MIYAMOTO, The Effect of Alkali on the Oxidation of Ferrous Hydroxide with Air Susumu MIYAMOTO, The Effect of Alkali on the Oxidation of Sodium Sulphite with Air	25 Sen
No. 109-110. Tetsusaku IKEDA, On the Dehydration of Borneol. Tetsusaku IKEDA, On the Formation of Camphene from Pinene Hydrochloride	35 Sen
No. 111. Masaiichi MAJIMA, Sakuchi TOGINO, The Radiograph of a Crystal Having the Face-centered Cubic Lattice	40 Sen
No. 112-114. Ziró TUZI, A New Material for the Study of Photoelasticity. Ziró TUZI, Photo-elastic Study of Stress on a Specimen of Three Dimensional Form. Ziró TUZI, Photo-elastic Study of Stress in Heat-Treated Column	60 sen
No. 115. Zi ó NAKAMUYA, Kózó KAWAKAMI, On the Hydrogenation of "Bioslerin"	30 sen
No. 116. U. SUZUKI, W. NAKAHARA, N. HASHIMOTO, On the Reproductive Failure of White Rats on Synthetic Diets	55 sen.
No. 117-118. Ichiro SAKURADA, Tadashi NAKASHIMA, Ueber die Löslichkeit der Celluloseester. I. Mittellung. Ichiro SAKURADA, Tadashi NAKASHIMA, Ueber die Löslichkeit der Celluloseester. II. Mitteilung. Eine Betrachtung	25 Sen
No. 119. Tsunoo SUZUKI, Koichi KASAI, Ueber die Zersetzung von Schmelze im $\text{CaO-Al}_2\text{O}_3\text{-SiO}_2$ -System. (Uebersetzung von Nippon Kwagaku Kwaiishi 48, 1927)	30 sen
No. 120-121. Susumu MIYAMOTO, The Effect of Caustic Alkali on the Oxidation of Stannous Chloride with Air. Susumu MIYAMOTO, On the Oxidation of the Mixture of Stannous Chloride and Sodium Sulphite in Alkaline Solution with Air	25 Sen

研究製作品目録

感光發電池	光エネルギーを電氣エネルギーに變換する新裝置にして照射程度の測定等に應用し得可し
氣壓測微計	極めて微細なる氣壓の變化を著しく擴大して記録し、周期の短き氣壓の變化をも遺漏なく記録し得
濕度調整器	濕度調整のリレーにして室内の溫度を一定ならしめんとする場合に最も適し、工場、倉庫、病院等に取附けて常に一定の濕度を保ち得
象限電位計	コムプトン型の象限電位計にして弱電流及靜電位の測定に適す
纖維電位計	急激なる電壓變化の測定に使用す
シャイナー氏感光計	シャイナー氏感光計を改良したるものにして寫真乾板の感光度の測定に使用す
ヘフネル氏ランプ	電燈其他の燈火の燭光の測定或は科學上の測定に使用す
銳感電流計	極めて微弱なる電流の測定に適し、其銳感度 10^{-10} amp. 程度なり
ランプ・アンド・スケール	銳感電流計及此種の測定器の觀測に便なり
X線寫真機	粉末狀試料及微細粒よりなる金屬等のX線メタクトル寫眞の撮影に使用す
常壓水晶水銀燈	長岡博士の考案にして取扱極めて容易に、其使用電流僅に一〇〇ボルト二分の一乃至一アマペアにして真空水銀ランプよりも遙に強度の紫外線を發す、醫療用に最も適す
水銀デイフュージョンポンプ複式及單式	高度の真空を作るに際し使用するものにして構造の簡單、使用法の便、到達し得る真空程度の大なる等の特徴を有す
複式	厚式 7.5mm. 真空程度 10^{-5} — 10^{-6} mm.
單式	厚式 6—10mm. 真空程度 10^{-5} — 10^{-6} mm.
放電計	リーフエレクトロメコップの一種にして實驗室用並に携帯用を兼ねたる放射能測定器なり

エマネーション・チエンバー 放電計の附属品にして液態試料用電離槽にて温泉のエマネーション測定等に最も便なり
清水式鋭感検電器 清水教授の考案に成るものにして金箔電位計に比して感度極めて良好にして取扱容易なるを以て微小な
る静電位の測定に適す

熔融點測定器

種々なる物質の熔融點を最も簡便に且つ迅速精密に測定し得る装置なり

X線分光計

X線の研究並に結晶分子配列の研究に缺くべからざる特殊の分光計にして、ブラッグ氏の案出せるものに改
良を加へたるものなり

強光度分光寫真機

瞬間的に變化する光線のスペクトルを瞬時の曝寫にて撮影し得べく又極めて微弱なるスペクトル線も短
時間の露出にて能く感光せしめ得るもの

水平型材料試験機

金属材料の弾性又は張力試験に便利なる特殊の装置を有するもの

テープ式クロノグラフ

紙テープを恒速電動機によつて恒速を以て進出せしむるものにして比較的簡單なる装置によつて相
當の正確度を有するもの

リトロ型スペクトログラフ

撮影装置及萬能保持器を分離して製作せるを以てコンケイブグレーチング、プレーン
グレーチング及 ∞ プリズムの諸分光撮影器を使用する場合に最も便利にして調整極めて迅速なり

ピエゾエレクトリク用水晶板

ピエゾエレクトリク實驗に使用するものにして纖維電位計を用ふるときは極小時間に變化する壓力を測定
し得べく或は清水式鋭感検電器を用ひて最大壓力の測定に使用す

高速度指壓計

高速度内燃機關等のインサケイターダイヤグラムを撮影するに適し又運轉中の壓力變化を直接に觀測し得べ
し

壹千氣壓水壓ポンプ

簡單なる手押式にして容易に千氣壓の高壓を得べく漏洩の箇處殆んどなく僅々數回ハンドルを上下す
るのみにて可なり

二百氣壓水壓ポンプ

前記一千氣壓水壓ポンプよりも更に小型にて簡單に所要水壓を得るものなり

貳萬氣壓水壓機

高壓實驗用として製作せるものにして壹千氣壓ポンプと併用す、現在世界に於て製作し得る最大壓と云ふを
得可し

光弾性學實驗裝置

光學的弾性試験に使用するものにして種種の比較裝置を有し最も速かに試料各部内の絕對値を見出し得
るものなり

フエノライト板

光弾性學實驗用試験材料としてセルロイドの約五倍の感度を有するものなり

スクリユーコムパレーター

スペクトル寫真等其他精密測定に使用し得べく三十粒の長さに於てスクリユーは千分の二ミ
リ以内の誤差なり

理研ピストンリング

發動機、壓搾機等の氣筒内壁に對し均等なる壓力を有することを特徴とし當所發明の方法によりて製
造したるものにして普通「ピストンリング」よりも生産費遙かに低廉なり

ピストンリング試験機

壓電氣現象の應用によりてピストンリングが氣筒内壁の各部に及ぼす應力分布状態を極めて正確に
測定しピストンリングの優劣を正確に判定し得るものなり

内燃機關用發火栓

電氣絶緣完全にして熱の急變に依り破壊することなきを以て特に航空機又は自動車用に適す

デロー氏壘(運搬用及實驗用)

液態空氣容器にして真空度極めて高し

斷熱壘(一名家庭用魔法壘)

デロー氏壘を應用改良せるものにして家庭用として四季を通じて保温或は斷熱に便なり

醫療用保温器

真空瓶を應用したるものにして外部より熱の影響を受くること少きを以て醫療用として食鹽注射或は洗滌用
等に終始温度の變化なし

移動暗函

纖維電位計纖維電流計等の記録用として取扱容易なるものなり、乾板はカピネ板以下を使用し得其の移動速
度は毎秒三十粒を限度とす

時刻器(タイムマーカー) 前記移動暗函の附屬として使用するものにして小型同期電動器及振動器の二個より成る

微量分析装置 プレカルク式微量分析装置にして炭素水素及窒素定量用装置の諸部分品を具備す

ペーパーカメラ 移動暗函に比して長き記録を撮影せんとする目的のものにしてロールにまきつけたるプロマイドペーパーを撮影用に充つ音波撮影の如き高速度を要するものには特に適切なるものなり

三千気圧アブソリュートゲージ 水壓に使用するものにして既知の面積を有するプランゲヤーに重量を荷し之と液體とな

二百気圧瓦斯壓縮容器 水壓ポンプを使用し水壓によりて瓦斯を二百気圧に壓縮する容器なり

土井式屈折計 従來屈折計として使用されしジャンソンの干渉計は二枚の平行平面鏡の調節極めて煩瑣にして而も干渉縞は

複雑なる曲線状を呈し使用上不便の點多し本器は調節極めて簡易殆んど手を下さずして自ら完了せるに近きものあり且つ干渉縞は互に平行なる直線状を呈し混合瓦斯の成分を分析測定し其他液體、氣體等の屈折率を測定するに輕便なる屈折計なり

錐 試 驗 機 錐採機又は旋盤にて穿孔する際の錐の切削力を脈電氣現象の巧妙なる應用によりて精確に測定するものにして工作機械研究者及鋼材研究者等に必要なるものなり垂直型及水平型の二種あり

旅盤用刃物試験機 旋盤に於て材料を加工するに至り其刃物の切削力を脈電氣現象の應用によりて三方向の分力を精確に測定するものにして鋼材研究者及工作工具研究者に必要なるものなり

電 解 鐵 器 鐵鐵又は鐵屑を原料とし電解法に依り製造したるもの純度九九・九八五%

電 解 鐵 器 鐵鐵又は鐵屑を原料とし電解法に依り製造したるもの純度九九・九八五%

金屬粉粒加壓焙成品 銅試片に對する試験成績長さの伸五%最大荷量(疋)一平方ミリに對し九・八

軟性金屬の微粉 複雑なる機械的操作に依らず鹽類を用ひて簡單に製造したる鉛錫ハンダ等の粉末なり

アルミニウム電氣絶縁線及防銹器具 電氣分解に依り絶縁皮膜を形成したるものにして耐熱五〇〇度以上とす電解器

一酸化炭素より製したる活性炭素 水瓦斯等を原料とするを以て多量に且つ廉價に製造することを得

理研コランダム坩堝 耐熱攝氏約二〇〇〇度特に耐酸性強く濃硫酸等の濾過用又は電氣分解槽内隔壁用に好適す

理研マグネシア坩堝 結合劑を用ひず製造したるものなるを以て普通坩堝に比し耐熱度著しく高く熔融物質を汚損することなし熔融點攝氏二八〇〇度

理研コランダム砥石 金屬研削用

ウルトラゼン眼鏡 紫外線及赤外線を完全に吸収する新有機化合物を二枚の硝子内面に塗布して製作せるものにして眼の衛生には理論上又實驗上在來の色眼鏡と其撰を異にす

ウルトラゼン濾光器 ウルトラゼンの特性を利用し航空寫眞、整色寫眞、天然色寫眞其他光學上の目的に使用す

エリクソンP 普通乾板より整色寫眞乾板を簡單に作り得る感光性色素

イルミノールR・G 普通乾板より全色寫眞乾板を簡單に作り得る感光性色素

理研陽畫感光紙 直接陽畫に現はれ水洗を要せざる感光紙

理研アマミドル 寫眞現像用として輸入品に比し遜色なく且つ廉價に製出し得べし

ベンジルフリユオラミン(一名B・F) 整色寫眞感光用の色素にして此の色素を以て染色せる寫眞乾板はよく綠色、黄色の光線に感じ現象の際「カブリ」を生ずる事なく染色後二ヶ年を経過するも變質する事なし

日中映畫用膜(デライトスクリーン) 活動寫眞幻燈等に用ふる映畫用膜面にして入射光線に對して一定の方向にのみ

亂反射を爲す特性を有し此が爲に日中明るき室内又は夜間電燈にて照らされたる室内にても能く映寫するを得るものなり

理研反轉現像液 撮影したる原板を直に陽畫に作り上げ得るもの

理研反轉現像器 右現像液を用ひて活動用フィルム現像する器具なり

理研ウイタミンA 肝油中に存在する有効成分を化學的操作に依り完全に抽出し膠球に入れ内服用としたるもの

ピオステリン 理研ウイタミンAの濃厚溶液を精製し注射用としたるもの

合成酒 米を調節する目的を以て米を用ひず清酒と同一の風味を有する糖化學的に合成したるものにして有害の成分を含まず絶対に腐敗の虞なし

理研衛生酢 ウイタミンBを含有し風味芳醇にして絶対に變味又は腐敗の虞なし

理研ソース 新鮮なる蔬菜の煮汁にウイタミンBを多量に含有する調味料を配製したるもの

濃水劑クラリット 水の悪息、有機物、鐵分、アムモニア等を吸着除去し又恐るべきバクテリアをも酸化滅滅する外硬水を軟化する效を有す

アドソール 常温にて蠶絲、繭、水産物其他食料品等の乾燥。工場、劇場、倉庫、病院等温濕の調整。家庭貯藏品の防濕。天然瓦斯、石炭瓦斯より揮發油分の採集に使用す

漂白劑ケラモコール 古印刷紙の漂白劑となり或は織物の糊に使用す窒素原料の可塑性増加劑として最も便なり

染料の中間體 アニン、アルファアチナフチラミン、パラトルイアン、オルトアニシン、キリシナン、無水フタル酸等染料の中間體は皆當所發明の裝置及觸媒により製造す

夜光體 一度光を受ければ暗所にて長時間光を發するものにして夜光ペンキ等の原料とす

バラアルデハイド 醫藥用として催眠及鎮靜劑に又防腐劑として使用す當所發明の裝置及方法により多量に製造し得

アセトアルデハイド 醋酸製造に用ふる外酒精、人造樹脂、染料等化學工業用原料として使用す當所發明の方法により多量に製造し得

理研アスファルト 石油或は石炭ピッチを原料とせるものにして天然アスファルトに比し遜色なく寒暑の影響を受くることなし

沈降性磷酸三石灰 北大東島に産出する磷酸礬土を處理して製出したる新肥料

純アルミナ 磷酸礬土を處理して製造す。價格低廉なり金屬アルミニウム又は硫酸礬土の原料とす

理研驅虫劑コクゾール 引火の虞なく貯藏中の農産物、被服等の驅蟲又は殺菌に使用す

理研殺虫劑ネオトン 藥害なく農作物、園藝作物、樹木等に寄生する害蟲及家畜家禽に寄生するシラミ、ノミ、羽蟲、ダニ等を驅除するに用ふ

テトラリン 有機物の溶媒特にテレピン油の代用品としてゴム工業其他ペイント、ヴァニシユ等用途頗る多し

液體空氣 空氣を強く壓縮して再減壓し液化したるものにして氷點下一四三度なる故強烈なる冷却作用を有すラジオ真空管製造にも使用す

◆上記製作品の價額に就ては當所工作係に御問合せありし猶當所は左記諸工作の御依頼に應ず

精密目盛及測定

◆尺 度 目 盛

精 密 の 度 2/1000mm.
最 大 の 長 さ 1 m.
最 大 の 幅 2 cm.

◆圓盤目盛

精密の度 2 msec.
最大の直徑 2 m.
◆精密螺子(但し牡螺子に限る)	
精密の度 2/1000mm.
最大の長さ 30 cm.
最大の直徑 5 cm.
◆長さの測定	
精密の度 1/10000mm.
測定し得る最大の長さ 1 m.
Pylex Glass 細工 Quartz Glass 細工

役員名簿 (大正十五年六月現在)

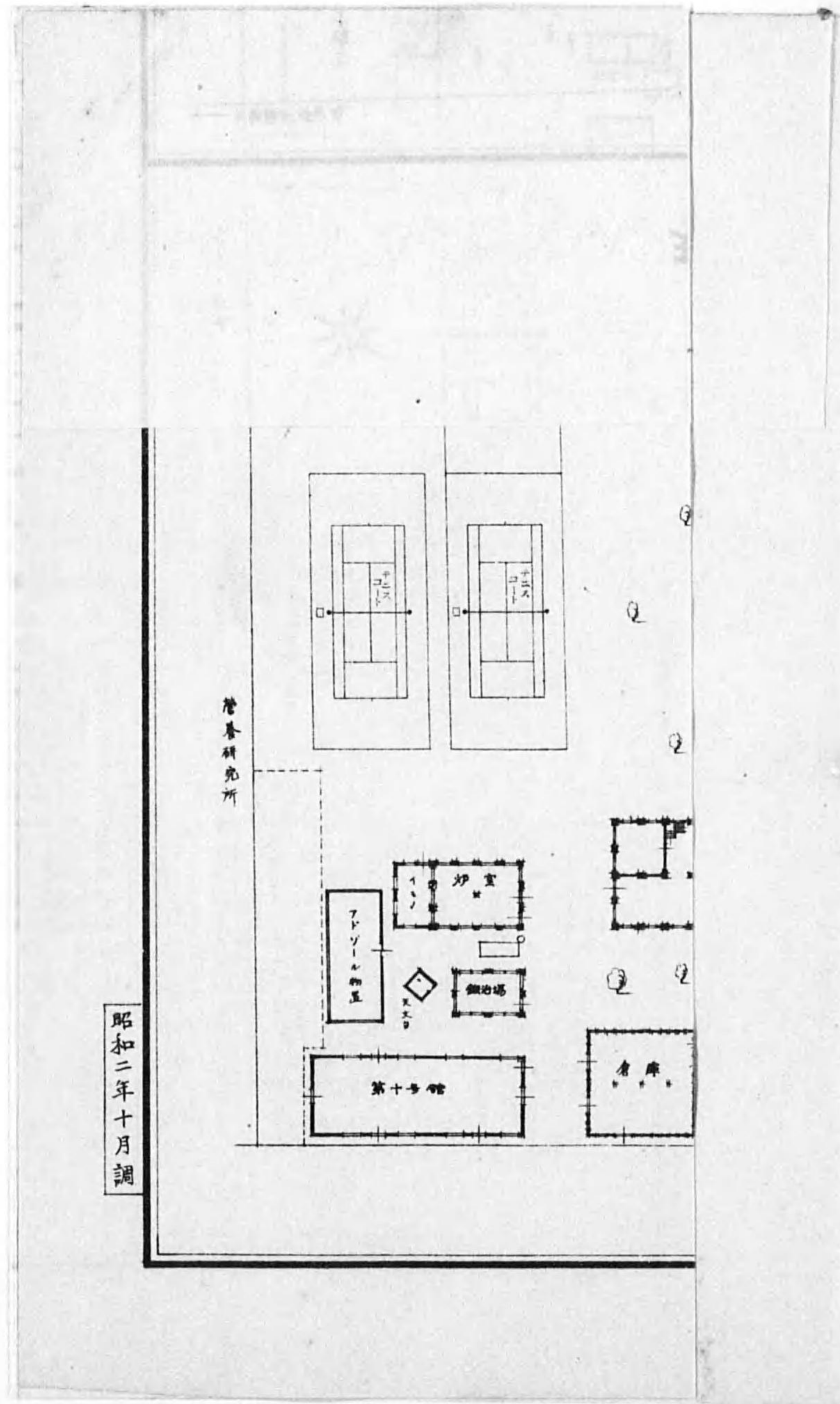
總裁	伏見宮博恭王殿下	理事	青木 菊雄
副總裁	子爵 澁澤 榮一	同	子爵 澁澤 榮一
顧問	男爵 山 川 健次郎	同	商工次官 四 條 隆 英
同	男爵 古 市 公 威	同	男爵 鹽 原 又 策
同	男爵 櫻 井 錠 二	同	男爵 森 村 開 作
理事	原 邦 造	同	文部次官 粟 屋 謙
同	大橋 新太郎	監事	男爵 岩 崎 小 彌 太
同	子爵 大 河 内 正 敏	同	原 六 郎
同	工學博士 高 松 豐 吉	同	久 原 房 之 助
同	工學博士 團 琢 磨	同	男爵 古 河 虎 之 助
同	同 內 藤 久 寬	同	男爵 三 井 八 郎 右 衛 門
同	農學博士 古 在 由 直		

評議員 男爵 岩崎小彌太
 同 岩井勝次郎
 同 井上準之助
 同 市來乙彦
 同 服部金太郎
 同 原六郎
 同 原富太郎
 同 原邦造
 同 濱口儀兵衛
 同 濱口吉左衛門
 同 西山政猪
 同 堀越角次郎
 同 大橋新太郎

評議員 男爵 大川平三郎
 同 男爵 大倉喜八郎
 同 工學博士 大河內正敏
 同 小倉常吉
 同 日本興業銀行 小野英二郎
 同 法學博士 岡實
 同 岡崎藤吉
 同 川崎八右衛門
 同 梶原仲治
 同 日本勸業銀行 梶原仲治
 同 勝田銀次郎
 同 貝島合名會社
 同 田中榮八郎
 同 田中平八

評議員 工學博士 高松豊吉
 同 高峰保全株式會社
 同 工學博士 團琢磨
 同 大日本人造肥料株式會社
 同 工學博士 塚本靖
 同 根津嘉一郎
 同 長井長義
 同 藥學博士 長野善五郎
 同 內藤久寬
 同 中村清二
 同 理學博士 中村房次郎
 同 植村澄三郎
 同 內田信也

評議員 久原房之助
 同 安田善三郎
 同 山下龜三郎
 同 侯爵 前田利爲
 同 松方幸次郎
 同 松本健次郎
 同 男爵 古河虎之助
 同 藤原銀次郎
 同 藤山雷太
 同 藤井榮三郎
 同 兒玉謙次
 同 橫濱正金銀行 兒玉謙次
 同 農學博士 古在由直
 同 青木菊雄

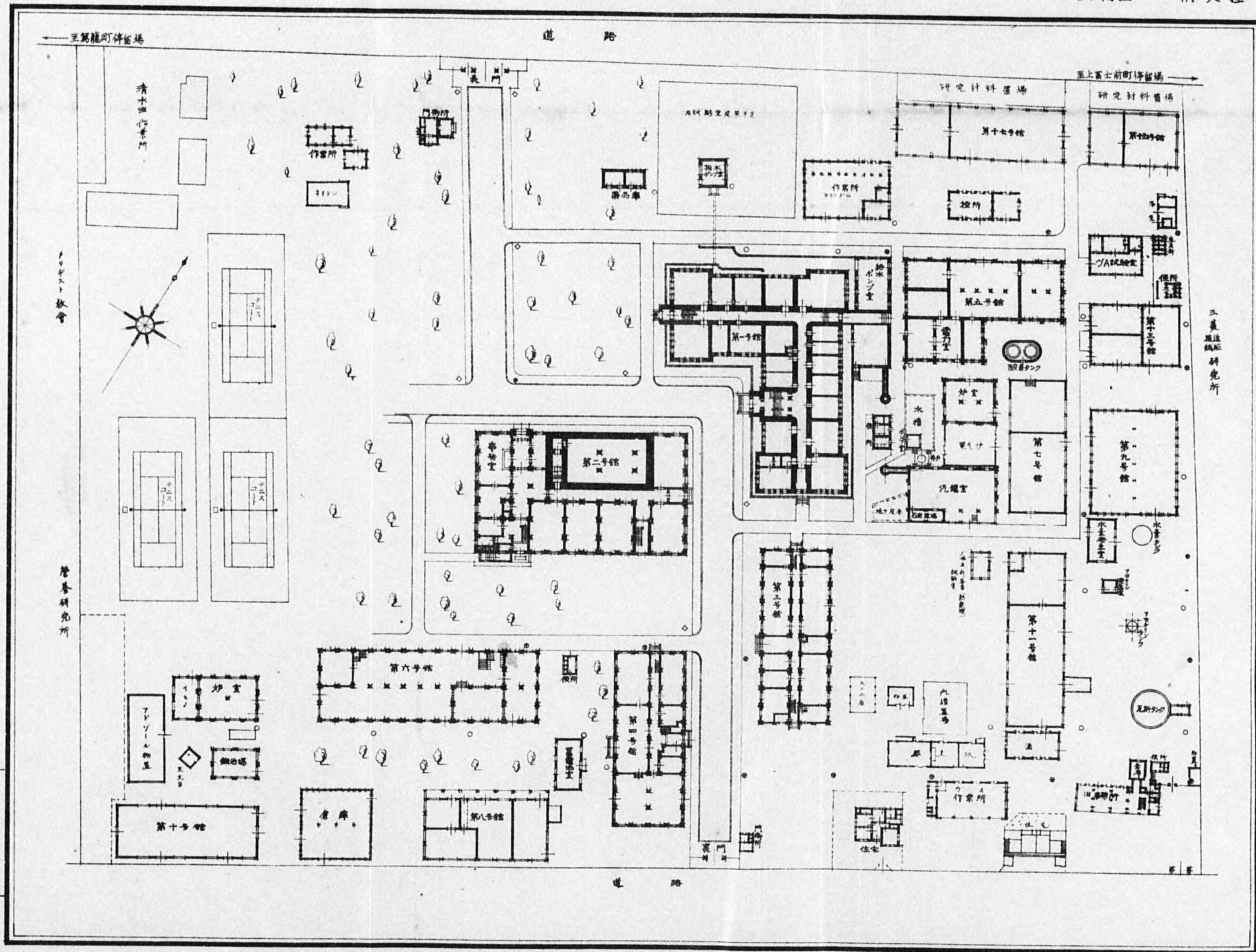


同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	評議員
	日本郵船株式會社	鹽原又策	商工次官 四條隆英	子爵 澁澤榮一	南滿洲鐵道株式會社	商工省 工務局長 宮内國太郎	三輪善兵衛	男爵 三井八郎右衛門	第一銀行 佐々木勇之助	文部次官 栗屋謙	同	同	淺野總一郎
島德藏	白仁武												麻生太吉

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	評議員
													株式會社十五銀行
鈴木三郎助	鈴木岩治郎	末延道成	森廣藏	森村開作	森下博	同	同	同	同	同	同	同	

財團法人
 理化學研究所建物配置圖
 縮尺九百八十分之一

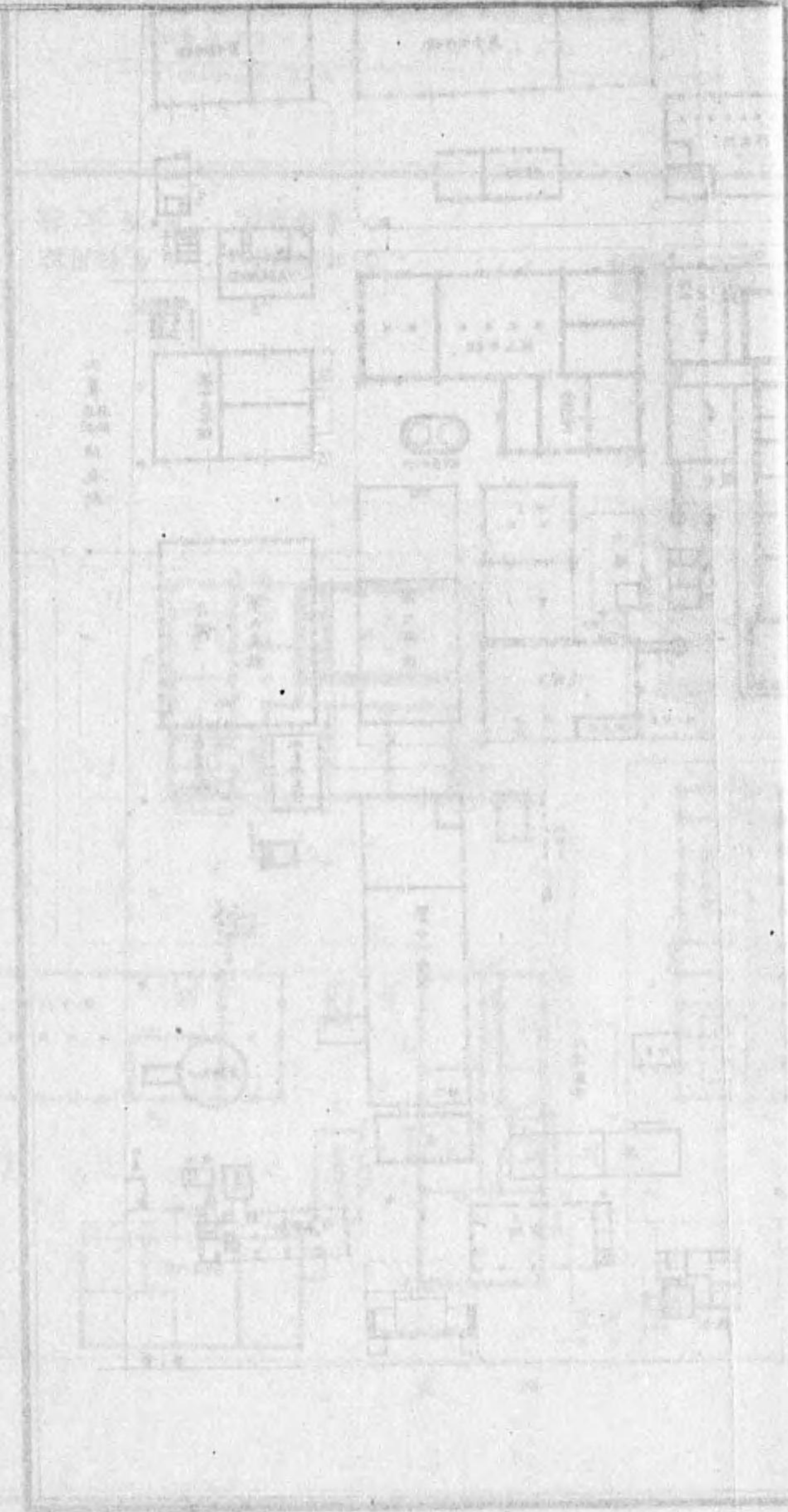
- 凡例
- ◇ 外邊鉄柱
 - 電話用柱
 - 電燈用柱
 - 消火栓



昭和二年十月調



同 同 同 同 同
 株日本郵船 男商子
 式會社 爵工次官
 島 白 鹽 四 濫
 德 仁 原 條 灣
 藏 武 策 隆 榮



昭和二年十一月五日發行

財團
理化學研究所

代表者 大河内正敏
東京市本郷區駒込上富士前町三十一番地

印刷者 島連太郎
東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所 三秀舍
東京市神田區美土代町二丁目一番地

IF 5N 92

終